

科目名	SES100: 基礎ゼミナール			担当教員	平野 幸治, 宮崎 幸江, 飯田 純也, 杉村 美佳, 小林 宏子, 岩崎 明子
開講期	春	分類	必修		
単位	2	標準受講年次	1 年		

担当教員の 連絡情報	担当教員	研究室	オフィスアワー	連絡先
	平野 幸治	4210	水 2・3 限、木 2・3・4 限	
	宮崎 幸江	4217	月 5 限・火 3 限	
	飯田 純也	4216	木 2・3・4 限	
	杉村 美佳	4220	水 5 限、金 2・5 限	
	小林 宏子	4204	火 4 限、木 3 限	
	岩崎 明子	4213	木 2・3 限	

キーワード	導入教育、自立と自律、大学生としての学び、プレゼンテーションの方法、ノートの取り方、進路、小論文の書き方、研究倫理
授業の概要	本学の教育理念である“Women for others, with others”を目指す学生生活への導入となる授業です。大学での学びに必要なアカデミックスキルを身につけ、将来のキャリア形成を視野に入れた大学生活のプランをたてていきます。
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 大学での自律した学びに必要なアカデミックスキルが身につきます。具体的には、さまざまな分野の問題を論じるために必要となる専門的な情報や知識をどのように得て、プレゼンテーションや小論文としてどのように発信していくかを実践しながら学びます。また大学生が知っておくべき研究倫理についても学びます。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 学生同士のディスカッション、プレゼンテーションを中心に日本語での発信力を磨きます。また、同時期に開講される専任教員によるショートレクチャーや教員の小論文を用いて、ノートテイキング技術や要約の仕方、小論文の書き方を実践的に身につけます。
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 課題：5%×8回＝40%、ショートレクチャーのノートテイキング：2%×4回＝8%、プレゼンテーション：22%（発表 15%、司会 7%）、小論文作成：30%。 【評価基準 <i>Criteria</i>】 課題：提出期限・内容と書式の遵守で 5 点、遅れた場合（翌日午後 5 時まで、以後は受け付けない）マイナス 3 点、内容または書式が守られていない場合はマイナス 2 点、ノートテイキング：3 つのレクチャーについてきちんとノートをとっている 2 点、そうでない 1 点、プレゼンテーション：内容が整理されていて、聞き手にむけて顔をあげてきちんと話している 15 点、内容・提示資料が整理されていない、顔をあげてきちんと話していない場合は各マイナス 5 点、司会：質問が適切で顔をあげてきちんと話す 7 点、質問が不適切、きちんと話していない場合は各マイナス 2 点、小論文は論点が明確でパラグラフライティングができており、書式・提出期限を守れば 30 点、論点・パラグラフライティングが不完全、書式・提出期限を守っていない場合は各マイナス 10 点となる。なお、欠席した回の課題は提出しても採点対象とはしない。

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	ガイダンス ― 「他者のために、他者とともに生きる」ために、アカデミックスキルと研究倫理について	テキスト 1 章講読、自己紹介、グループディスカッション	本学の三つのポリシーとテキストの学長先生のメッセージを読む

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
2	自己を知り、自己を確立する ― 自主と自律、学業計画、人間学を学ぶ意義	テキスト2章講読、DVD 視聴、グループディスカッション	テキスト3章講読、課題① 視聴 DVD 内容の要約
3	世界に目を向け、異文化に心を開く ― 多文化共生社会でのボランティア活動への招き	DVD 視聴、グループディスカッション	テキスト4章講読、課題② 視聴 DVD 内容の要約
4	学ぶ姿勢を見直そう ― 大学での学び、ノートの取り方のこつ、スケジュール管理、インターネット・SNS 利用上の留意点	DVD 視聴、ノートテイキング、グループディスカッション	テキスト5章講読、課題③ 視聴 DVD 内容の要約
5	最初の一步を踏みだそう ― 質問の仕方、レポート作成時の注意事項、プレゼンの準備、研究倫理について	DVD 視聴、グループディスカッション、質疑応答	テキスト6章講読、課題④ 視聴 DVD 内容の要約
6	文章のパラグラフ構造 ― 要約と文章の中心文	グループワーク、グループディスカッション	テキスト6章講読、課題⑤ 指定トピックについてパラグラフライティング
7	ゼミ選択と進路選択 ― 卒業までの計画、進路決定のために何をするか + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト7章講読、ショートレクチャー出席
8	編入への道 ― 編入試験の概要、進学のために何をすべきか + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト8章講読、ショートレクチャー出席
9	就職への道 ― 働くとはどういうことか、企業は学生に何を求めているのか + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト9章講読、ショートレクチャー出席
10	女性のキャリアとライフコース ― 働く女性の状況、あなたのライフプラン+プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト10章講読、ショートレクチャー出席
11	キャリア・パスを考える ― なぜ進学／就職するのか、理由を説明する + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト11章講読、課題⑥ 視聴 DVD の内容要約
12	将来の夢を実現するためのリサーチ ― 進路別のグループでリサーチプランを作成	グループディスカッション、情報収集の仕方	テキスト12章講読、課題⑦ 新聞記事の要約、小論文のためのリサーチ
13	論点をまとめる ― リサーチしたことをグループでシェア、小論文の骨組みをつくる	グループディスカッション、アウトライン作成	テキスト13章講読、小論文のためのリサーチ
14	引用の仕方 ― 先行研究や得た情報を踏まえてメイン・パラグラフを作成	小論文の相互チェック、講評	課題⑧小論文のアウトライン作成
15	小論文の仕上げ 学修ポートフォリオ記入	引用・註についての説明、グループワーク	テキスト15章講読 小論文作成

テキスト	上智大学短期大学部編『Essentials ―A Guide to Finding the Right Career Path for You』
参考書	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）
その他 特記事項	授業時間外に全専任教員による 90 分のショートレクチャーが 4 回ある。出席して取ったノートを提出すること。日時・場所・レクチャータイトルについては初回授業でお知らせします。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	永野 良博
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4218	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	現代アメリカ文学、Ernest Hemingway、氷山理論、個人の確立、家族、共同体						
授業の概要	アメリカの作家 Ernest Hemingway による文学作品とそれらに関する研究書・論文を読み、小説の研究に必要な基礎的な知識を身に付けてゆく。多くを語らない抑制された文章を読み、創造的に主題を読み取る。扱われる主題は、個人の確立、家族、友人・恋人、生と死、戦争、伝統とそこからの脱却、社会的マイノリティとの関係、文明と自然、ジェンダー、身体論等。授業では学生同士そして教員との意見交換が中心となる。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 文学作品の登場人物の心理と人間関係を読み取る能力を身に付ける。そしてそれらを家族、共同体、社会、伝統、文明、文化、人種、宗教、科学、歴史等の問題と関連させて考え、論じることが出来るようになる。様々な研究主題を理解し、そこから独自の文学論を形成してゆく。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 文学作品とそれらに関する本・論文からメモを取ることから始めて、文学的主題の発見と研究方法の基礎を身に付ける。作品と先行研究の理解とそれらに関する自分の意見を発展させて研究ノートにまとめ、主題を設定し、論文作成に向けた訓練を行う。さらに研究の成果を効果的に口頭発表する。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業参加（40%）、研究ノート（30%）、論文（20%）、論文発表（10%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業参加に関しては事前に資料を読み理解し、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を発表出来ること。研究ノートでは先行研究に関する十分な理解を示し、それに対する自分独自の意見の記述をする。論文では以上の成果を基に明確で論理的な文学論を書く。論文の発表では、口頭での明確な意見の発表と共に、十分な質疑応答が出来るよう、発表内容に関する補足説明事項や発展的な考えを準備する。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Ernest Hemingway 初期短編導入 氷山理論と作品読解に向けて	講義、質疑応答	“The Doctor and the Doctor’s Wife” を読む
2	作品 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 父と母、科学と宗教、倫理的行為	意見交換	“The Doctor...,” 研究書・論文を読む
3	作品 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 悪の拒絶、異人種との共存	意見交換	“The Doctor...,” 研究書・論文を読む
4	“Soldier’s Home” 失われた世代、破壊と日常、破壊と文明	意見交換	“Soldier’s Home,” 研究書・論文を読む
5	“Soldier’s Home” 虚偽の人生、愛の喪失、伝統的共同体	意見交換	“Soldier’s Home,” 研究書・論文を読む
6	“Cat in the Rain” 他者の欲望と自己の欲望、夫婦の危機	意見交換	“Cat in the Rain,” 研究書・論文を読む
7	“Cat in the Rain” 髪を伸ばすこと、猫が表すもの、父権制	意見交換	“Cat in the Rain,” 研究書・論文を読む
8	“Indian Camp” 生と死、通過儀礼、マイノリティ女性の身体	意見交換	“Indian Camp,” 研究書・論文を読む
9	“Indian Camp” 自然・文明・テクノロジー、論文作成法、大学生の研究倫理	意見交換	“Indian Camp,” 研究書・論文を読む

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	“End of Something” 未成熟な恋愛、時間について	意見交換	“End of Something,” 研究書・論文を読む
11	“End of Something” ハードボイルド的文体、男性間の連帯と女性	意見交換	“End of Something,” 研究書・論文を読む
12	“Fathers and Sons” 空虚な自己と個人主義、父と子	意見交換	“Fathers and Sons,” 研究書・論文を読む
13	研究発表	口頭発表と質疑応答	発表原稿作成
14	研究発表	口頭発表と質疑応答	発表原稿作成
15	研究発表 リフレクションタイム	口頭発表と質疑応答 意見交換	発表原稿作成
テキスト	Ernest Hemingway. <i>The Complete Short Stories of Ernest Hemingway</i> (Scribners). アーネスト・ヘミングウェイ『われらの時代・男だけの世界』（新潮文庫） Hemingwayに関する研究書・論文		

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	永野 良博
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4218	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	現代アメリカ小説、フィクションと現実の再構築、英文読解、小説へのアプローチ						
授業の概要	20世紀後半アメリカのポストモダニズムを代表するKurt VonnegutとJohn Barthを中心とする作家の作品と、それらに関連する資料を読み、小説の研究に必要な知識をつけてゆく。既存の現実の表象の在り方に疑問を投げ掛け、フィクションの力で現実を再構築する様子を学ぶ。作品理解を深め、独自の主題の発見をし、精読により英文読解能力の向上を目指す。学生同士の議論そして学生による研究発表が中心となる。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 文学作品の登場人物の心理と彼等の社会・歴史との複雑な関係を読み取る能力を身に付ける。また様々な文学的主题への理解を深め、それらを文学研究者たちがどのように論じ、人間性の発見へと繋げてきたのか理解する。文学作品の読み取り方、文学に関する研究論文の書き方を習得する。同時に発表力、質問力、そして意見交換を通じた建設的な議論実行力を身に付ける。文学の英文を読み解く。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 登場人物の考えや行動について理解を深め、彼等を取り巻く世界について、出来るだけ多くの主題を読み取り、独自の主題発見へと繋げる。他の学生との意見交換を通して、自らの議論の問題点・可能性について知り、さらなる議論の向上を目指す。独自の文学論文作成を行い発表する。英語による文学の読解を通して英語読解力を伸ばす。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業参加（文学作品に関する議論及び英文読解）（40%）、論文（40%）、研究発表（20%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業参加に関しては事前に資料を読み、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を授業で提示出来ること。また他人の意見に対して建設的な意見を与えられること。論文作成では、文学的主题の発見力、独自の意見の構築力、論理的議論発展力が求められる。発表は主題を適切にまとめたレジュメを基に行い、質問に対して、周到的調査と熟考に基づいた答えを与えることが必要。英文読解では文学作品の英文の正確な理解が必要である。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	【Kurt Vonnegut, <i>Slaughterhouse-Five</i> 】 時間の中の彷徨、時間と死の概念	資料講読、意見交換	小説第1章 ハンドアウト pp.1-3
2	第二次世界大戦、少年期再訪、復讐、死の予告	資料講読、意見交換	小説第2章 - 3章 ハンドアウト pp.4-6
3	決定論と自由意志、個人の歴史への係り、宇宙の終末、予定説	資料講読、意見交換	小説第4章 - 5章 ハンドアウト pp.7-9
4	カルヴィニズム、ナチスへの徹底抗戦、不条理な死、ドレスデン爆撃の記憶	資料講読、意見交換	小説第6章 - 7章 ハンドアウト pp.10-12
5	飛行機墜落事故と不条理な死、妻への愛、空想科学小説、自己と世界の再創造	資料講読、意見交換	小説第8章 - 9章 ハンドアウト pp.13-16
6	主題分析まとめ、論文作成法、大学生の研究倫理	資料講読、講義、意見交換	小説第10章 ハンドアウト p.17
7	【John Barth, <i>The End of the Road</i> 】 自己喪失、選択不可能状態	資料講読、意見交換	小説第1章 - 3章 ハンドアウト pp.18-20
8	実存主義、相対主義的世界に関する議論、内在的価値の否定	資料講読、意見交換	小説第4章 - 5章 ハンドアウト pp.21-23

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
9	個人が独自の価値観と視点を持ち一貫性を保持すること、愚かさに関する議論	資料講読、意見交換	小説第6章 - 7章 ハンドアウト pp.24-26
10	古き自己の放棄、個人の独自性、真正なる個人、姦通と動機の不在	資料講読、意見交換	小説第8章 - 9章 ハンドアウト pp.27-29
11	神話療法、原因の探求、行動の結果への責任、個人と主体、主題分析まとめ	資料講読、意見交換	小説第10章 - 12章 ハンドアウト pp.30-34
12	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
13	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
14	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
15	研究発表、リフレクションタイム	発表、質疑応答、意見交換	研究発表準備
テキスト	Kurt Vonnegut, <i>Slaughterhouse 5</i> (Dell). カート・ヴォネガット『スローターハウス 5』（ハヤカワ書房）。John Barth, <i>The End of the Road</i> (Anchor). ジョン・バース『旅路の果て』（白水社）。ハンドアウト		

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	永野 良博
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4218	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	現代アメリカ小説、フィクションと現実の再構築、英文読解、小説へのアプローチ						
授業の概要	20世紀後半アメリカのポストモダニズムを代表する Thomas Pynchon と Don DeLillo を中心とする作家の作品と、それらに関連する資料を読み、小説の研究に必要な知識をつけてゆく。既存の現実の表象の在り方に疑問を投げ掛け、フィクションの力で現実を再構築する様子を学ぶ。作品理解を深め、独自の主題の発見をし、精読により英文読解能力の向上を目指す。学生同士の議論そして学生による研究発表が中心となる。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 文学作品の登場人物の心理と彼等の社会・歴史との複雑な関係を読み取る能力を身に付ける。また様々な文学的主题への理解を深め、それらを文学研究者たちがどのように論じ、人間性の発見へと繋げてきたのか理解する。春学期に修得した知識を活かし、より幅広く研究・調査を行い、自らの研究主題を発展させる。そして学期末に充実した研究論文を提出する。文学の英文を読み解く。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 登場人物の考えや行動について理解を深め、彼等を取り巻く世界について、出来るだけ多くの主題を読み取り、独自の主題発見へと繋げる。他の学生との意見交換を通して、自らの議論の問題点・可能性について知り、さらなる議論の向上を目指す。独自の文学論文作成を行い発表し、充実した研究論文を提出する。英語による文学の読解を通して英語読解力を伸ばす。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業参加（文学作品に関する議論及び英文読解）（30%）、論文（50%）、研究発表（20%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業参加に関しては事前に資料を読み、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を授業で提示出来ること。また他人の意見に対して建設的な意見を与えられること。論文作成では、文学的主题の発見力、独自の意見の構築力、論理的議論発展力、そして人間性や社会・歴史等についての新たな発見が求められる。発表は主題を適切にまとめたレジュメを基に行い、質問に対して、周到な調査と熟考に基づいた答えを与えることが必要である。英文読解では文学作品の英文の正確な理解が必要。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	【Thomas Pynchon, <i>The Crying of Lot 49</i> 】 囚われの身の女性、塔と虚空、世界を織る	資料講読、意見交換	小説第1章 - 2章 ハンドアウト pp.35-38
2	啓示への期待、謎の郵便・通信システム、情報のコントロール	資料講読、意見交換	小説第3章 ハンドアウト pp.39-41
3	亡き兵士達の遺骨、密使の悲劇、歴史の闇、周辺性、異端性	資料講読、意見交換	小説第4章 - 5章 ハンドアウト pp.42-44
4	エントロピー、マックスウエルの悪魔、別世界によるこの世界への侵入	資料講読、意見交換	小説第4章 - 5章 ハンドアウト pp.45-47
5	ポストモダニズム、疎外された人々、メタファーの役割	資料講読、意見交換	小説第6章 ハンドアウト pp.48-50
6	相続権を失いし者達の組織、Epiphany を待ちながら、主題分析まとめ	資料講読、意見交換	小説第6章 ハンドアウト pp.51-53
7	【Don DeLillo, <i>White Noise</i> 】 富、消費、リスク、死、テクノロジーと環境汚染	資料講読、意見交換	小説第1章 - 13章 ハンドアウト pp.54-57

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
8	アメリカで最も写真撮影が行われた納屋、媒介された知覚とオーラ	資料講読、意見交換	小説第 14 章 - 20 章 ハンドアウト pp.58-60
9	消費、消費者の実存的クレジット、死、畏怖、独立した生を持つ現代の死	資料講読、意見交換	小説第 21 章 ハンドアウト pp.61-63
10	テクノロジー、超国家的名前、超越への願望、死の恐怖を取り除く薬	資料講読、意見交換	小説第 22 章 - 28 章 ハンドアウト pp.64-66
11	ヒットラーに魅了、死への恐怖と独裁者による支配への願望、主題分析まとめ	資料講読、意見交換	小説第 29 章 - 40 章 ハンドアウト pp.67-70
12	研究発表、大学生の研究倫理	発表、質疑応答	研究発表準備
13	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
14	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
15	研究発表、リフレクションタイム	発表、質疑応答、意見交換	研究発表準備
テキスト	Thomas Pynchon, <i>The Crying of Lot 49</i> (Vintage). トマス・ピンチョン『競売ナンバー49の叫び』（筑摩書房）。Don DeLillo, <i>White Noise</i> (Picador). ドン・デリロ『ホワイト・ノイズ』（集英社、絶版）。ハンドアウト		

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	平野 幸治
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4210	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	ambiguity (曖昧さ), maturity (成熟), intolerance (不寛容さ), reconciliation (和解)						
授業の概要	プレゼミでは 20 世紀の前半のイギリスの作家 E.M.フォスターの作品を取り上げて、文学研究の専門用語と概念が理解できるように授業を展開する。特に分析のポイントを 2 つ設定し、登場人物はプロット展開とどう結びつくのか、比喩はテーマとどう結びつくのかに着目し、グループに分かれて作品を鑑賞する機会と発表する力と作品の引用の仕方を身につける。発問の仕方、回答の仕方と文学の知識を日常的に検証する。						
達成目標および到達目標	【達成目標 Course goals】 この授業の目的は、小説『ハワーズ・エンド』と『眺めの良い部屋』、彼の批評『小説の諸相』から、文学研究の専門用語と概念が理解できることを主眼に、特に「登場人物の内面の変化」と「比喩の持つ効果と曖昧さ」に着目して、小グループに分かれて発表する力を身につける。グループワークにより専門研究の知識と手がかりを身につけ、学期末にグループで発表する。発問の仕方、研究方法と英文学の知識を日常的に検証する。 【到達目標 Learning objectives】 学期末には学生は、 ①グループで意見を出し合い、自分の意見を相対化することができるようになる。 ②作品の理解と専門用語や概念を把握したうえで、グループワークによって研究の知識と手順の手がかりを身につけ、グループで発表できるようになる。 ③研究する上での倫理を踏まえ、引用を用いた 3,000 字程度の日本語のレポートと英文の abstract が書けるようになる。 ④発問の仕方、作品研究の方法と英文学の知識を意見をきちんとした日本語で短時間に書く能力を獲得できる。						
評価方法および評価基準	【評価方法 Categories】 ①グループ・ディスカッション終了時に専用フォームにグループ内の書記が記入し、その成果の発表（20%＝5%×4 回）。 ②-1 学期中間および②-2 学期末にグループワークの成果のプレゼンテーション（10 分程度の発表）（20%：発表 10%＋レジュメ提出 10%）。 プレゼンテーションで各自が果たした発表を③研究する上での倫理を踏まえ、学期末に提出したレポート（3,000 字程度の日本語の文章＋英文の abstract）（15%）。 ④授業に関する質問や意見をきちんとした日本語で短時間に書き、毎回の授業の終了時に回収する shuttle card（45%＝3%×15 回）。 【評価基準 Criteria】 評価基準は授業の初回に詳しく説明します。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	イントロダクション：E.M.フォスターの文学的意義と research について	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
2	作品研究『ハワーズ・エンド』(1)：描写の「曖昧さ」の意義と効果	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
3	作品研究『ハワーズ・エンド』(2)：描写の「曖昧さ」の多様性と効果	①-1 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
4	作品研究『ハワーズ・エンド』(3)：「登場人物の内面の存在」とプロットの展開	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
5	作品研究『ハワーズ・エンド』(4)：「登場人物の内面の変化」とプロットの展開	①-2 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
6	『ハワーズ・エンド』と『小説の諸相』の 相関性	②-1 中間発表とプロ ットの説明	ノートの整理
7	作品研究『眺めの良い部屋』(1)：描写の 「曖昧さ」の意義と効果	講義とプロット・サ マリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
8	作品研究『眺めの良い部屋』(2)：描写の 「曖昧さ」の効果とプロットの展開	①-3 グループ・ディ スカッションと発表	ディスカッションのための 要点整理
9	作品研究『眺めの良い部屋』(3)：描写の 「曖昧さ」の多様性と効果	講義とプロット・サ マリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
10	作品研究『眺めの良い部屋』(4)：「登場 人物内面の変化」とプロットの展開	①-4 グループ・ディ スカッションと発表	ディスカッションのための 要点整理
11	作品研究に基づき比喩とプロットの相関 性と研究する上での倫理構築と plagiarism	講義とプロット・サ マリーの説明	ノートの整理とレジュメの 下調べと資料整理
12	E.M.フォスターの作品研究『ハワーズ・ エンド』のグループ発表	②-2 発表と質疑応答	発表原稿の整理とレジュメ の作成
13	E.M.フォスターの作品研究『眺めの良い 部屋』のグループ発表	②-2 発表と質疑応答	発表原稿の整理とレジュメ の作成
14	E.M.フォスターの小説と『小説の諸相』 の相関性	文学研究の意義の説 明と③レポート提出	レポートの作成と資料整理
15	レポート返却とリフレクションタイム	講義とレポートの講 評	ノートの整理

テキスト	J. Bate, <i>English Literature: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
参考書	D. ロッジ、柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』（白水社） <i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	平野 幸治
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4210	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	ambiguity (曖昧さ), metaphor (比喩), empathy (共感), reconciliation (和解)						
授業の概要	ゼミナール I では、現代のイギリス作家のカズオ イシグロ著『日の名残り』 <i>The Remains of the Day</i> 、『私を離さないで』 <i>Never Let Me Go</i> 、『忘れられた巨人』 <i>The Buried Giant</i> に関してテーマと語りについて研究する。テーマと作品の持つ現代性について討議し、outsiders の視点やキーワードに挙げた概念の受容を読者の視点から考察する。発問の仕方、回答の仕方と英文学の知識を日常的に検証する。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 この授業は、文学作品を特定の視点を用いて読み解き、テーマの理解をすすめ、さらに文学作品の持つ機能と現代性について考察することを目的とする。小グループで自分の意見を効果的に述べる技術や経験を積むことも目標である。発問の仕方、作品研究の方法と英文学の知識を日常的に検証する。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 学期末には学生は、 ①グループで意見を出し合い、自分の意見を相対化することができるようになる。 ②作品の理解と専門用語や概念を把握したうえで、グループワークによって研究の知識と手順の手がかりを身につけ、グループで発表できるようになる。 ③研究する上での倫理を踏まえ、引用を用いた 3,000 字程度の日本語のレポートと英文の abstract が書けるようになる。 ④発問の仕方や意見をきちんとした日本語で短時間に書く能力を獲得できる。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 ①グループ・ディスカッション終了時に専用フォームにグループ内の書記が記入し、その成果の発表 (20%=5%×4 回)。 ②-1 および②-2 グループワークの成果のプレゼンテーション (10 分程度の発表) (20% : 発表 10%+レジュメ提出 10%)。 プレゼンテーションで各自が果たした発表を③研究する上での倫理を踏まえ、学期末に提出したレポート (3,000 字程度の日本語の文章+英文の abstract) (15%)。 ④授業に関する質問や意見をきちんとした日本語で短時間に書き、毎回の授業の終了時に回収する shuttle card (45%=3%×15 回)。 【評価基準 <i>Criteria</i>】 評価基準は授業の初回に詳しく説明します。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	イントロダクション:『日の名残り』における語りについて	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
2	作品研究『日の名残り』における語りについて (1)	①-1 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
3	作品研究『日の名残り』における語りとテーマの相関性について (2)	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
4	作品研究『日の名残り』における outsiders (部外者) の要素とは?	①-2 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
5	『日の名残り』②-1 グループワークの発表と研究者としての倫理構築: research	②-1 発表と質疑応答	発表原稿の整理とレジュメの作成
6	作品研究『日の名残り』における professionalism の持つ意味とは?	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
7	作品研究『私を離さないで』におけるテーマと作品の持つ現代性について（1）	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDを視聴しておく
8	作品研究『私を離さないで』における作品の持つ現代性とプロットの展開について（2）	①-3 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
9	作品研究『私を離さないで』におけるoutsiders（部外者）の要素とは	①-4 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
10	『私を離さないで』②-2 グループワークの発表と研究者としての倫理構築と plagiarism	②-2 発表と質疑応答	発表原稿の整理とレジュメの作成
11	作品研究『忘れられた巨人』におけるテーマと作品の持つ現代性について（1）	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べ
12	作品研究『忘れられた巨人』における作品の持つ現代性とプロットの展開について（2）	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べ
13	作品研究『忘れられた巨人』について：②-1 および②-2 のグループワークの発表成果に基づいた観点からの討議	講義と質疑応答	②-1 および②-2 のグループワークの発表成果の振り返り
14	カズオ イシグロの持つ現代性について（1）	講義と③レポートの提出	レポートの作成と資料整理
15	カズオ イシグロの作品の持つテーマの意義と現代性（2）とレポート返却とリフレクションタイム	講義とレポートの講評	ノートの整理

テキスト	J. Bate. <i>English Literature: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
参考書	D. ロッジ、柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』（白水社） <i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	平野 幸治
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4210	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	ambiguity (曖昧さ), metaphor (比喩), intolerance (不寛容さ), reconciliation (和解)						
授業の概要	前半は、William Shakespeare の劇を取り上げて、文学研究の専門用語と概念が理解できるように授業を展開する。悲劇として <i>Othello</i> 、喜劇は <i>A Midsummer Night's Dream</i> を扱い、グループでそれぞれの劇のテーマと演出の効果についてディスカッションをする。後半は、 <i>The Hours</i> を取り上げて、映像と文学の観点から考察する。学期末にはゼミ論を完成し、口頭発表をする。発問の仕方、回答の仕方と文学の知識を日常的に検証する。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 この授業は、学期前半はゼミナールⅠで獲得した文学研究の方法論を William Shakespeare の劇の考察に応用し、劇のテーマと演出の効果についてグループで討議し発表してもらう。Shakespeare の普遍性と固有性について理解する。後半は、映像と文学という観点から <i>The Hours</i> を扱い、Virginia Woolf という作家の問題意識と先進性に焦点を当てる。学生の知的興味を刺激して、期末にはゼミ論を完成し、口頭発表ができるよう指導する。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 学期末に学生は、ゼミ論を完成し、発表ができるようになる。Shakespeare の特徴が理解でき、Virginia Woolf の問題意識と先進性を把握し、映像と小説の相違を理解したうえで、①ディスカッションによって問題意識と発問のスキルを獲得できるようになる。②グループでレジュメを用いて発表できるようになる。③研究者としての倫理を踏まえ英文の abstract をつけた 5,000 字の論文が書けるようになる。④発問の仕方、作品研究の方法と英文学の知識を意見をきちんとした日本語で短時間に書く能力を獲得できる。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 ①グループ・ディスカッション終了時に専用フォームにグループ内の書記が記入し、その成果の発表 (10%=5%×2 回)。 ②学期末にグループワークの成果についてレジュメを用いてプレゼンテーションする (20%: 発表 10%+レジュメ提出 10%)。 ③研究者としての倫理を踏まえた論文 (5,000 字程度の日本語+英文の abstract) を学期末に提出 (25%: アウトライン報告 5%+ゼミ論の中間発表 5%+提出 10%+英文の abstract 5%)。 ④授業に関する質問や意見をきちんとした日本語で短時間に書き、毎回の授業の終了時に回収する shuttle card (45%=3%×15 回)。 【評価基準 <i>Criteria</i>】 評価基準は授業の初回に詳しく説明します。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	William Shakespeare の悲劇 <i>Othello</i> と喜劇 <i>A Midsummer Night's Dream</i> 研究の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD の視聴
2	悲劇 <i>Othello</i> の作品研究の方向性について	①-1 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
3	喜劇 <i>A Midsummer Night's Dream</i> の作品研究の方向性について	①-1 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
4	<i>Othello</i> と <i>A Midsummer Night's Dream</i> の作品研究 (1) と③ゼミ論のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
5	<i>Othello</i> と <i>A Midsummer Night's Dream</i> の作品研究 (2) と③ゼミ論のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
6	<i>Othello</i> と <i>A Midsummer Night's Dream</i> の作品研究 (3) と③ゼミ論のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
7	③ゼミ論のアウトライン報告と研究者としての倫理構築と plagiarism	発表と質疑応答および講義	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
8	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究の関連性について	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDの視聴
9	③ゼミ論の中間発表（全員）	発表と質疑応答および講義	発表用の原稿作成と資料整理
10	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究（1）	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDの視聴
11	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究（2）	①-2 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
12	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究（3）	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDの視聴
13	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究（4）	①-2 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
14	②グループワークの成果の発表	発表と質疑応答	②グループワークの発表の準備およびレジュメ作成
15	グループワークの成果の講評とリフレクションタイム	発表の講評と講義および③ゼミ論の回収	③ゼミ論の提出準備

テキスト	Germaine Greer. <i>Shakespeare: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』（岩波新書）
参考書	D. ロッジ、柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』（白水社） S. Barnet & W. Cain. <i>A Short Guide to Writing about Literature</i> (Pearson).

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	近藤 佐智子
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4208	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、会話分析、英語教育						
授業の概要	主に英語と日本語を対象に、社会と言語のダイナミックな関係を社会言語学および語用論の観点から研究する。これまでに構築されてきた理論、研究方法、研究結果について英語で書かれた文献を読み概観し、具体的な事象に照らし合わせて先行研究の妥当性についてディスカッションを行う。学期の最後には各自選択したテーマについて文献研究を行いレポートにまとめる。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 社会の中で言語がどのように使用されているのかを分析できるようになるために、社会言語学および語用論の理論および先行研究の内容を理解し、それらの研究結果が妥当であるかどうかを判断できるようになる。幅広い文献を使って研究ができるようになるために、英語で書かれた専門書を読む力をつける。各自選択したテーマについて秋学期に実証研究を行う素地を作るために、文献研究を行う。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 英語の専門書を読み、要約や発表用レジメを作成し、内容を日本語で口頭発表することができるようになる。理論、専門用語、先行研究の内容を理解し、具体例をあげて説明やディスカッションができるようになる。テーマに沿った文献を探し、読み、論文の形式でまとめることができるようになる。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 文献研究論文（30%）、発表（30%）、要旨の提出（20%）、授業への貢献度（20%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 別紙参照。評価基準の詳細については初回の授業時に配布する。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	導入	講義	テキストの目次の確認
2	Regional and social dialects	学生の発表 ディスカッション	テキスト pp. 131-158 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
3	Gender and age	学生の発表 ディスカッション	テキスト pp. 159-185 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
4	Ethnicity and social networks	学生の発表 ディスカッション	テキスト pp. 186-205 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
5	Language change	学生の発表 ディスカッション	テキスト pp. 206-236 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
6	Style, context and register	学生の発表 ディスカッション	テキスト pp. 239-273 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
7	Speech functions, politeness and cross-cultural communication	学生の発表 ディスカッション	テキスト pp. 274-300 読み日本語要約、発表者はレジメ作成

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
8	Gender, politeness and stereotypes	学生の発表 ディスカッション	テキスト pp. 301-336 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
9	Language, cognition and culture	学生の発表 ディスカッション	テキスト pp. 337-362 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
10	Analysing discourse	学生の発表 ディスカッション	テキスト pp. 363-408 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
11	個人研究の進め方：文献の探し方	講義、演習	個人テーマ決定のためのリサーチ
12	個人研究の進め方：文献論文の書き方、研究倫理	講義、演習	個人テーマ決定のためのリサーチ
13	研究計画の発表	学生の発表 ディスカッション	文献研究論文を書く 発表準備
14	研究計画の発表	学生の発表 ディスカッション	文献研究論文を書く 発表準備
15	研究計画の発表 リフレクションタイム	学生の発表 ディスカッション	文献研究論文提出 発表準備

テキスト	J. Holmes. <i>An Introduction to Sociolinguistics, Fourth Edition</i> (Routledge). 田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』（春風社）
参考書	飯野公一ほか『新世代の言語学—社会・文化・人をつなぐもの』（くろしお出版） 岡本真一郎『ことばのコミュニケーション—対人関係のレトリック』（ナカニシヤ出版）
その他 特記事項	第1回から10回までは英語の予習、復習が必要である。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	近藤 佐智子
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4208	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、会話分析、実証研究						
授業の概要	ゼミナールⅠで得た社会言語学および語用論に関する知識を基に、個人で研究テーマを設定し、実際に調査研究を行い、成果を「ゼミ論文」としてまとめ、口頭でも発表する。その課程で論文の書き方、研究倫理、調査方法、分析方法、発表方法について学び、論文の完成に向けて段階的に準備を行う。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 言語の分析能力を身に付けるために、学生は自ら実証研究を行い、その研究の妥当性や先行研究との関連を判断できるようになることを目標とする。また、他の学生の研究発表を聞き、ディスカッションをすることによって、論理的思考をし、論理的に他者を説得することができるようになる。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 社会言語学や語用論の理論や先行研究をふまえて、実証研究ができるようになる。研究にあたっては、先行研究論文を批判的に読み、仮説が検証できるような研究計画を立て、データを分析し、その結果を先行研究結果と比較考察し、結論を導き出すことができるようになる。また、論理的に文章を組み立てて論文を書き、その内容を効果的な視覚的補助を用いて発表することができるようになり、他者の発表に対しても分析的な発言ができるようになる。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 実証研究論文（40%）、発表（30%）、4回の発表のレジメ提出（10%）、授業への貢献度（20%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 別紙参照。評価基準の詳細については初回の授業時に配布する。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	導入：個人研究の進め方、研究論文の読み方、研究倫理	講義	個人研究のデータ収集
2	読んだ論文の内容発表	学生の発表 ディスカッション	各自論文を1本読み発表の準備、個人研究のデータ分析
3	読んだ論文の内容発表	学生の発表 ディスカッション	各自論文を1本読み発表の準備、個人研究のデータ分析
4	読んだ論文の内容発表	学生の発表 ディスカッション	各自論文を1本読み発表の準備、個人研究のデータ分析
5	研究中間報告発表（1）	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
6	研究中間報告発表（1）	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
7	研究中間報告発表（1）	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
8	研究中間報告発表（2）	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、論文を書く
9	研究中間報告発表（2）	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、論文を書く
10	研究中間報告発表（2）	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、論文を書く

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	最終研究口頭発表の方法	講義	最終発表の準備
12	最終研究発表	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、論文初稿提出
13	最終研究発表	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、論文の直し
14	最終研究発表	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、論文の直し
15	総括 リフレクションタイム	講義 ディスカッション	論文最終稿提出

テキスト	田中典子『はじめての論文: 語用論的な視点で調査・研究する』（春風社） プリント『論文テーマの決定と仮説の立て方』『論文の書き方』
参考書	『社会言語科学（社会言語科学会）』、『近藤ゼミ論文集』

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	丹木 博一
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4214	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	哲学、倫理学、人間のいのちの意味						
授業の概要	人間のいのちについてどのような問いや関心が自分のうちに息づいているかをはっきりと自覚し、その問いを哲学的に練り上げ、考察した内容を分かりやすくグループ発表ができるようにする。ディスカッションを通して各自の研究テーマを明確にし、そのテーマについてどうすれば考えを推し進めていくことができるかを学ぶ。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 哲学及び倫理学の分野における基礎的な研究的態度を養うことが達成目標である。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ・互いにディスカッションを通して、理解を深めていく醍醐味を味わうことができる。 ・文献検索の方法や文献読解の手順を学び、問題を提起し探求する姿勢を身につける。 ・グループのメンバーと協力して発表を準備し、研究発表の手法を学ぶ。 ・自分の研究テーマについて小論文の形で論述展開することができる。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業参画（30%）、グループ発表（20%）、期末課題（2,500字以上のレポート）（50%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業参画：毎回の授業中の意見交換に積極的に参加しているかどうか。 グループ発表：グループワークを通して研究関心を練り上げ、問いを提起し、その問いについて適切な文献を選び、それを正確に読解した上で、その内容の紹介とグループによる独自の考察を加えて、分かりやすく発表できるかどうか。 期末課題：複数の参考文献を読み、関心を寄せるテーマについて問いを提起し、先行研究を理解した上で、理由を挙げて自分の考えを論じることができるかどうか。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	オリエンテーション	講義 自己紹介	自己紹介の準備。自身の研究テーマを模索する。
2	研究方法の紹介・文献検索及び文献読解の方法・研究倫理	講義	研究テーマを事前に記した書類を提出。
3	各自の関心の確認とグループ分け	講義・グループ分け グループ作業	研究テーマについて問題を提起する。
4	グループごとの研究テーマの練り上げ	講義 グループ作業	問いとその動機を書いた書類を提出。
5	研究事例の紹介 グループ発表の仕方についての説明	講義 グループ作業	グループ発表の準備
6	2年生の研究発表の見学	2年生との合同授業 質疑応答への参加	2年生の発表から学んだことを書いて提出。
7	グループ発表についての事前確認と質疑応答	講義 グループ作業	グループ発表の準備
8	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。発表から学んだことをまとめる
9	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。発表から学んだことをまとめる
10	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。発表から学んだことをまとめる

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。発表から学んだことをまとめる
12	グループ発表の振り返り 個人研究への導入	講義・小論文作成の エクササイズ	個人研究のテーマと問題意識を事前にまとめておく。
13	研究的取り組みの意義の再確認 研究能力の育成	講義・小論文作成の エクササイズ	問題提起をまとめておく。 授業後、手直しする。
14	研究レポート（小論文）作成の準備	講義・小論文作成の エクササイズ	小論文の構成を模式図にしておく。授業後手直しする
15	まとめ・リフレクションタイム	講義・リフレクション・アンケート	期末課題提出

テキスト	河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）
参考書	永井均 他 編『事典 哲学の木』（講談社） 内田美智子『お母さんは命がけであなたを産みました』（青春出版社）
その他 特記事項	問題意識をもって主体的に授業に参画することを求める。発表前には担当教員と事前に入念な打ち合わせを行うこと。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	丹木 博一
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4214	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	哲学、倫理学、人間のいのちの意味、人間の尊厳						
授業の概要	哲学及び倫理学の分野に関する諸問題について、学生が自らテーマを選び、研究を進める。各自がブックレポートを 2 回行い、互いにディスカッションを通して、テーマに関する理解を深めていく。この積み重ねによって、研究方法と発表方法を学び、文献読解、問題提起、論述の論理展開、討論に関する基礎力を身につける。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 哲学及び倫理学における基本的な研究能力を身につけることが達成目標である。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ・ 毎回の授業において建設的に問いを提起し、討論を繰り広げることができる。 ・ 哲学及び倫理学の分野のなかから自ら問いを立て、研究的に追求することができる。 ・ 研究に必要な文献を探して的確に読解し、理解内容を表現する力を身につける。 ・ 文献を批判的に読解し、自らの考えの軌跡を研究論文の形に仕上げるることができる。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業参画（15%）、ブックレポート 1 回目（20%）、ブックレポート 2 回目（25%）、小論文（4,000 字以上）（40%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業参画：積極的に授業に参加し、議論の深化発展に寄与できるかどうか。 ブックレポート：自らの問いを練り上げ、その問いに関する適切な研究文献を選び、その文献を正確に読解し、理解内容を分かりやすく表現するとともに、批判的に吟味し、自身の意見を提示できるかどうか。 小論文：自らの思考の軌跡を、研究論文の形式に仕上げ、分かりやすく論述できるかどうか。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	オリエンテーション・ブックレポートの方法について	講義	研究テーマについての事前アンケート提出
2	文献検索の方法・テキスト批評の方法・研究倫理	講義 ディスカッション	自身の研究のために核となる文献を探しておく
3	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
4	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
5	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
6	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
7	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
8	ブックレポートに対する講評と 2 回目のブックレポートに向けてのエクササイズ	発表 ディスカッション	事前課題の提出
9	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
10	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	ブックレポート	講義 エクササイズ	発表準備 ディスカッション準備
12	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
13	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
14	2回目のブックレポートに関する講評・小論文作成に関するエクササイズ	発表 ディスカッション	事前課題の提出
15	まとめ・リフレクションタイム	講義・リフレクション・アンケート	小論文提出

テキスト	河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会） 山内志朗『小さな倫理学入門』（慶應義塾大学出版会）
参考書	鷺田清一『「聴く」ことの力』（ちくま学芸文庫）
その他 特記事項	問題意識をもって主体的に授業に参画することを求める。発表前には担当教員と事前に入念な打ち合わせを行うこと。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	丹木 博一
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4214	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	哲学、倫理学、人間のいのちの意味、人間の尊厳						
授業の概要	自らが選んだ研究テーマをさらに絞り込み、ゼミナールⅠの研究発表において確認した各自の課題を解決することができるように、さらに研究を進めていく。各自一回研究発表を行い、時間をかけて議論をし、テーマに関する理解を深め、足りない点を自覚しながら、最終的に首尾一貫した研究論文を作成する。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 哲学及び倫理学の分野における研究発表能力及び論文作成能力を身につけることが達成目標である。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ・毎回の授業において建設的に問いを提起し、議論を繰り広げることができる。 ・自らが提起した問いを研究的に追求し、幅広い文献読解に基づいて、説得力のある研究発表を行う力を身につける。 ・他の学生からの問いに応答する力を養い、適切な批判であればそれを受け入れ、粘り強く自らの論考を練り直し、説得力のある研究論文の形に仕上げるることができる。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業参画（15%）、研究発表（25%）、卒業論文（8,000字以上）（60%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業参画：授業中のディスカッションに積極的に参加し、議論の創造的発展に寄与できるかどうか。 研究発表：自身の哲学的・倫理的な問いを練り上げ、先行研究を踏まえて、その問いに説得力のある回答を与えようと努めた成果を、分かりやすく発表できるかどうか。 卒業論文：自分が提起した哲学的・倫理的な問いについて、多様な議論に耳を傾けながら自分の立場を提示し、その妥当性について理由を挙げて論述できるかどうか。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	オリエンテーション 研究能力育成のためのエクササイズ	講義・ディスカッション・エクササイズ	これまでの研究のまとめと次のステップへの展望。
2	テキスト批評のエクササイズ1	講義・ディスカッション・エクササイズ	研究テーマ提出 エクササイズの宿題
3	テキスト批評のエクササイズ2	講義・ディスカッション・エクササイズ	宿題提出 エクササイズの宿題
4	論文作成のエクササイズ・研究倫理	講義・ディスカッション・エクササイズ	宿題提出 エクササイズの宿題
5	研究発表の方法の習得	発表・ディスカッション・エクササイズ	宿題提出 発表準備
6	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
7	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
8	研究発表の振り返り 卒業論文作成のためのガイダンス	講義 ディスカッション	ディスカッション準備
9	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
10	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
12	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
13	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
14	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
15	まとめ・リフレクションタイム	講義・リフレクショ ン・アンケート	卒業論文提出

テキスト	河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会） 山内志朗『小さな倫理学入門』（慶應義塾大学出版会）
参考書	坂部恵・加藤尚武 編『命題コレクション 哲学』（ちくま学芸文庫）
その他 特記事項	問題意識をもって主体的に授業に参画することを求める。発表前には担当教員と事前に入念な打ち合わせを行うこと。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	森下 園
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4202	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	歴史学、歴史認識、史料論、研究倫理						
授業の概要	歴史教育についての専門書をグループで輪読し、要約発表を行い、その後に個人研究のトピックを決めてゼミ発表を行う。これらを通して研究倫理を学び、大学生としてのアカデミックスキルを身に付ける。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 専門書を要約し発表することを通して、研究論文の批判的な読み方、報告の仕方、聞き方を身につけること、そのために研究倫理についても学ぶことが目標である。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 専門書を輪読することで専門書の読み方を身につけることができる。また、要約発表を通して、発表者は研究倫理を踏まえたレジュメの作成、発表の仕方を実践的に身につけ、聞き手はよい聞き方、すなわち良い質問をさせるような聞き方を身につけることができる。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 ①テキスト1の輪読および討論参加 30% ②テキスト2の輪読および要約発表 40% ③司会 10% ④要約発表での質問 20% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 ①テキスト1の輪読および討論参加：積極的に発言しているか、練習問題に取り組んでいるか ②テキスト2の輪読および要約発表：担当部分の要約レジュメを作成し、研究倫理にのっとって発表を行っているか、その後の討論に自発的に参加しているか ③司会：適切な進行を行っているか ④要約発表での質問：積極的に質問をしているか 発表の安易な理由による当日のキャンセルは減点となる。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	研究倫理について 文献の輪読・要約発表担当の決定と準備	講義、ディスカッション	テキスト1の「はじめに」を読む
2	輪読の練習、クリティカルリーディング (1) 論証、+要約レジュメの作り方	輪読、ディスカッション、討論	テキスト2の第一講を読む
3	輪読の練習、クリティカルリーディング (2) 根拠、+要約レジュメの作成	輪読、ディスカッション、討論	テキスト2の第二講を読む
4	輪読の練習、クリティカルリーディング (3) 暗黙の仮定、+口頭発表について	輪読、ディスカッション、討論	テキスト2の第三講を読む
5	輪読の練習、クリティカルリーディング (4) 推測力、+資料の探し方	輪読、ディスカッション、発表練習	テキスト2の第四講を読む
6	輪読の練習、クリティカルリーディング (5) パラグラフ構造、+発表準備	輪読、ディスカッション、発表練習	テキスト2の第五講を読む
7	輪読の練習、クリティカルリーディング (6) 論証図、+発表準備	輪読、ディスカッション、発表練習	テキスト2の第六講を読む
8	輪読、要約発表と質疑応答	輪読、要約発表、質疑応答、討論	テキスト1の該当論文を読む
9	輪読、要約発表と質疑応答	輪読、要約発表、質疑応答、討論	テキスト1の該当論文を読む

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	輪読、要約発表と質疑応答	輪読、要約発表、質疑応答、討論	テキスト1の該当論文を読む
11	輪読、要約発表と質疑応答	輪読、要約発表、質疑応答、討論	テキストの該当論文を読む
12	輪読、要約発表と質疑応答	輪読、要約発表、質疑応答、討論	テキスト1の該当論文を読む
13	輪読、要約発表と質疑応答	輪読、要約発表、質疑応答、討論	テキスト1の該当論文を読む
14	要約発表の反省、個人報告のトピック選定	グループワーク	個人報告のトピックおよび使用資料・文献の選定
15	個人報告の予備発表準備、リフレクション・タイム	個人報告、学修ポートフォリオ記入	個人報告のトピックおよび使用資料・文献の選定
テキスト	1. 福澤一吉『クリティカル・リーディング』（NHK 出版） 2. 上智大学史学科編『歴史家の散歩道』（Sophia University Press）		

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	宮崎 幸江
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4217	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	バイリンガリズム、言語マイノリティの言語と文化、言語教育政策、多文化共生						
授業の概要	日本における言語マイノリティの子どもの教育と多文化共生について、基礎的な事柄を学ぶ。1部2年生と合同でゼミを行ない、2年生の卒業研究の研究内容や研究方法、発表の仕方等を学ぶ。全員、なんらかのサービスラーニング活動を行うことにより、地域社会の課題解決に向けたアクティブラーニングを行う。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 本科目は、「多文化共生とバイリンガリズム」に関する知識を深め多文化共生社会の現状や課題について批判的に考える力を少しずつ養っていくことを目標とする。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 学期の終わりには、バイリンガルの言語発達や母語保持について理解できるようになる。また、日本におけるバイリンガルの言語教育環境とキャンパスのある秦野市の環境を比較し課題を発見し、ゼミナールⅠでその課題を掘り下げる。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業への積極参加 20%、口頭発表 30%、期末レポート 50% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業への積極参加：ゼミでのディスカッションへの参加を評価する。 口頭発表：文献講読において担当箇所を要約し問題点を明確に述べる。 期末レポート：バイリンガルの言語発達や母語保持について理解し、バイリンガルの言語教育環境についても問題を分析する力を評価する。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	夏休みの研究報告 1	発表、ディスカッション	プレゼン準備
2	文献講読 1 ことばとアイデンティティ 1	発表、ディスカッション	文献を読んで、質問に答える
3	文献講読 2 ことばとアイデンティティ 2	発表、ディスカッション	文献を読んで、質問に答える
4	文献講読 3 「6章 多文化共生社会の実現にむけて」	発表、ディスカッション	文献を読んで、質問に答える
5	文献講読 4 「7章 多様化する外国籍の子どもと多文化教育」	発表、ディスカッション	文献を読んで、質問に答える
6	文献講読 5 「8章 文化・ことばと国際理解教育」	発表、ディスカッション	文献を読んで、質問に答える
7	文献講読 6 「9章 国際理解教育」	発表、ディスカッション	文献を読んで、質問に答える
8	文献講読 7 「10章 多文化の子どものエンパワメント」	発表、ディスカッション	文献を読んで、質問に答える
9	2年生卒業研究中間発表	1～2年合同 質疑応答	期末プロジェクト準備
10	2年生卒業研究中間発表	1～2年合同 質疑応答	期末プロジェクト準備
11	2年生卒業研究中間発表	1～2年合同 質疑応答	文献を読んで、質問に答える

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
12	期末プロジェクト発表	1年生のみ 質疑応答	発表準備
13	2年生卒業研究最終発表	1～2年合同 質疑応答	発表準備
14	レポートの書き方・研究倫理	講義	レポート作成
15	まとめ、リフレクションタイム	学修成果の振り返り	レポート作成

テキスト	宮崎幸江『日本に住む多文化の子どもと教育—ことばと文化のはざまで生きる』（ぎょうせい出版）
履修条件、 前提科目	原則として、日本語教育概論を同じ学期に履修すること、またはサービスラーニング入門講座に出席していること。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	宮崎 幸江
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4217	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	バイリンガリズム、言語マイノリティの言語と文化、ニューカマー、オールドカマー、日本の言語教育政策						
授業の概要	日本における言語マイノリティの子どもの教育と多文化共生について、各自がテーマを決めて 1 年かけて自主的に学ぶ。ゼミナール I では、研究テーマへの導入として、ゼミ全体で地域の言語マイノリティの子どもと教育についてグループごとに研究し、地域社会の課題解決に向けたアクティブラーニングを行う。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 本科目は、日本における言語マイノリティの現状について正しい知識を身に付け、テーマにそって課題研究をすることを目標とする。 【到達目標 <i>Learning objective</i>】 学期の終わりまでに、言語マイノリティの教育問題を理解できるようになる。また、文献をもとに、それらの問題を批判的に分析することができるようになる。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業への積極的参加 20%、口頭発表 30%、期末レポート 50% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業参加：発言やディスカッションへの貢献で評価する。 口頭発表：言語マイノリティの教育問題のポイントを表現できる。 期末レポート：文献をもとに、言語マイノリティの教育問題を批判的に分析できる。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	ゼミナール I の進め方についての説明 グループ分けについて	講義、ディスカッション	研究テーマ絞り込み
2	文献講読 1 ことばとアイデンティティ 1	講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
3	文献講読 2 ことばとアイデンティティ 2	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
4	文献講読 3 「6 章 多文化共生社会の実現にむけて」	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
5	文献講読 4 「7 章 多様化する外国籍の子どもと多文化教育」	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
6	文献講読 5 「8 章 文化・ことばと国際理解教育」	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
7	文献講読 6 「9 章 国際理解教育」	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
8	文献講読 7 「10 章 多文化の子どものエンパワメント」	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
9	論文の構造	講義、ディスカッション	研究テーマ絞り込み
10	文献の読み方・まとめ方	講義、ディスカッション	研究テーマ絞り込み
11	調査の方法と結果のまとめ方	講義、ディスカッション	研究テーマ絞り込み

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
12	論文テーマ発表 研究の計画をたてる	講義、ディスカッション	文献講読、論点を考える、 アウトライン作成
13	アウトライン作成	講義他	文献講読、発表準備
14	レポートの書き方・研究倫理	講義	レポート作成
15	まとめ、リフレクションタイム	学修成果の振り返り	レポート作成

テキスト	宮崎幸江（編）『日本に住む多文化の子どもと教育—ことばと文化のはざまで生きる』（ぎょうせい出版）
履修条件、 前提科目	原則として、日本語教育概論を履修していること。同じ学期に日本語教育演習を履修すること、または同じ学期にサービスラーニング入門講座に出席すること。
その他 特記事項	本ゼミ履修生は、2007 年に秦野市と締結した提携協定に基づき行われるサービスラーニング活動（地域の外国籍市民と児童を支援する日本語・教科支援ボランティア）に参加することを求める。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	宮崎 幸江
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4217	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	バイリンガリズム、言語マイノリティの言語と文化、言語教育政策、多文化共生						
授業の概要	日本における言語マイノリティの子どもの教育と多文化共生について、各自がテーマを決めて1年かけて自主的に学ぶ。ゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠで学んだことを発展させて課題研究を行う。先行研究の読み方、研究課題の絞り方、調査方法と結果のまとめ方等についてもクラスで学び、学年末に卒業研究としてゼミ論文集を編集する。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 本科目は1年次から参加してきたコミュニティフレンドまたはカレッジフレンドでの経験と、日本語教育概論・演習、プレゼミナール等で学んだ知識を総合させて、多文化共生社会の現状や課題について批判的に考える力を養うことを目標とする。 【到達目標 <i>Learning objective</i>】 学期終了までに、プレゼンテーションやディスカッションをするスキルも上達し、研究論文が書けるようになる。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業への積極的参加 20%、口頭発表 30%、期末レポート 50% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業参加：発言やディスカッションへの貢献で評価する。 口頭発表：各自の研究テーマにそってポイントを述べられるかを評価する。 期末レポート：文献をもとに、言語マイノリティの教育問題を批判的に分析し、論文にまとめる力を評価する。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	夏休みの研究報告1	発表と質疑応答、ディスカッション	プレゼン準備
2	夏休みの研究報告2	発表と質疑応答、ディスカッション	プレゼン準備
3	夏休みの研究報告3	発表と質疑応答、ディスカッション	プレゼン準備
4	卒業研究の計画	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
5	文献講読1 各自研究テーマに関する文献のレポート	講義、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
6	文献講読2 過去2年間のゼミ論文を読む	講義、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
7	卒業研究グループディスカッション	講義、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
8	卒業論文の書き方1	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、発表準備
9	卒業研究中間発表	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、発表準備
10	卒業研究中間発表	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、発表準備
11	論文の書き方2	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
12	論文アウトライン発表	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
13	論文指導	講義	文献講読、テーマ絞り込み
14	レポートの書き方・研究倫理	講義	レポート作成
15	まとめ、リフレクションタイム	学修成果の振り返り	レポート作成

テキスト	宮崎幸江（編）『日本に住む多文化の子どもと教育—ことばと文化のはざまで生きる』（ぎょうせい出版）
その他 特記事項	1年次から継続してきたサービスラーニング活動から、地域社会の課題解決に向けたアクティブラーニングを行ない卒業研究とする。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	飯田 純也
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4216	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	文学、ゲーム、冒険、魔法、推理、確率、ギャンブル、復讐、戦争、国家						
授業の概要	このゼミでは、人文及び社会科学の諸問題を研究する準備として、広義の文学作品の研究の実践を通して、研究の意義と方法を学ぶ。履修者は自分のテーマを自ら設定し、作品の分析、解釈を行い、研究成果を研究レポート（和文 5,000 字）にまとめる。研究レポートを仕上げる前に、中間発表（30 分質疑応答含む）を行い、他者の意見、助言を取り入れ、中間レポート（和文 2,000 字）を提出する。中間発表予定の前にテーマ発表を行い、発表当日他の履修者から建設的質問を引き出すように配慮する。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 達成目標は、自ら選んだテーマについて、文学作品の分析から得た根拠を使い、自分の見解を説得的に論じることができる能力を身につけることである。到達目標には以下のことが含まれる。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 1. 社会的、歴史的背景の中で問題を発見、評価、設定することができる 2. 上の 1 をふまえ、自らの意見、主張を根拠付けて説明することができる 3. 上の 1 と 2 をふまえ、自分が導いた結論と対立する意見に対して、複数の根拠を上げながら、効果的に説得することができる						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 1. 中間発表は 20%、2. 中間レポートは 10%、3. 研究レポートは 40%、4. ゼミ参加状況、特に他の学生の発表時の積極的関与が 30% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 詳細は初回授業時に説明する。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	オリエンテーション 研究倫理、文学理論	講義、質疑応答、グループワーク	事前に研究テーマの候補を複数考える
2	ゲームと文学 (1) 冒険、魔法、ロマンス	講義、質疑応答	資料を読み、筋と要点をノート
3	ゲームと文学 (2) 推理、確率、ギャンブル	講義、質疑応答、グループワーク	資料を読み、筋と要点をノート
4	ゲームと文学 (3) 復讐	講義、質疑応答	資料を読み、筋と要点をノート
5	ゲームと文学 (4) 戦争	講義、質疑応答、グループワーク	資料を読み、筋と要点をノート
6	ゲームと文学 (5) 国家	講義、質疑応答、グループワーク	ノートを整理、質問を考える
7	中間発表 (1 人 30 分)	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
8	中間発表 (1 人 30 分)	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
9	中間発表 (1 人 30 分)	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
10	中間発表 (1 人 30 分)	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	中間発表（1人30分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
12	中間発表（1人30分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
13	中間発表（1人30分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
14	研究倫理再確認 レポート提出直前指導	講義、個人指導	ノートを整理、レポートの準備
15	レポート提出直前指導 リフレクションタイム	個人指導	ノートを整理、レポートの準備

テキスト	1. Thackeray, William Makepeace. <i>Vanity Fair</i> (Web); 2. Sophocles. <i>Oedipus the King</i> (Web); 3. Shakespeare, William. <i>Hamlet</i> (Web) and <i>King Lear</i> (Web)
参考書	初回授業時に以下の参考資料のリンクをメールで通知する。 1. Study Guide for <i>Vanity Fair</i> ; 2. Study Guide for <i>Oedipus the King</i> ; 3. Study Guides for <i>Hamlet</i> and <i>King Lear</i>

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	飯田 純也
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4216	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	文学、哲学、歴史、宗教、心理、倫理、社会、政治、理解力、分析力、構成力、表現力						
授業の概要	このゼミでは、人文及び社会科学の諸問題を研究する準備として、広義の文学作品の研究の実践を通して、研究の意義と方法を学ぶ。履修者は自分のテーマを自ら設定し、作品の分析、解釈を行い、研究成果をゼミ論文（日本語で 10,000 字以上）にまとめる。ゼミ論文を仕上げる前に、中間発表（15 分質疑応答含む）を行い、他者の意見、助言を取り入れ、中間レポート（日本語で 2,000 字）を提出する。中間発表予定の前にテーマ発表を行い、発表当日他の履修者から建設的質問を引き出すように配慮する。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 達成目標は、自ら選んだテーマについて、文学作品の分析から得た根拠を使い、自分の見解を説得的に論じることができる能力を身につけることである。到達目標には以下のことが含まれる。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 1. 社会的、歴史的背景の中で問題を発見、評価、設定することができる 2. 上の1をふまえ、自らの意見、主張を根拠付けて説明することができる 3. 上の1と2をふまえ、自分が導いた結論と対立する意見に対して、複数の根拠を上げながら、効果的に説得することができる						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 1. 中間発表は 20%、2. 中間レポートは 10%、3. ゼミ論文は 40%、4. ゼミ参加状況、特に他の学生の発表時の積極的関与が 30%。 【評価基準 <i>Criteria</i>】 詳細は初回授業時に説明する。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	オリエンテーション 研究倫理、発表方法、スケジュール	講義、質疑応答、ディスカッション	事前に研究テーマの候補を複数考える
2	第1回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
3	第1回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
4	第1回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
5	第1回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備、中間レポート提出
6	第2回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
7	第2回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
8	第2回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
9	第2回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備、中間レポート提出
10	第3回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	第3回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
12	第3回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備
13	第3回中間発表（1人15分）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備、中間レポート提出
14	研究倫理再確認 論文提出直前指導	講義、個人指導	中間発表を整理、ゼミ論文の準備、論文提出
15	論文提出直前指導 リフレクションタイム	個人指導	中間発表を整理、ゼミ論文の準備、論文提出

テキスト	各自の研究関連の資料を随時配布
参考書	Any relevant titles from the Very Short Introductions series (Oxford Univ. Press): e.g. <i>English Literature</i> ; <i>American Indian Literature</i> ; <i>History</i> ; <i>Chaos</i> ; <i>Complexity</i> ; <i>Game Theory</i> ; <i>Modern War</i> .

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	神谷 雅仁
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4215	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	英語力の向上、TOEIC Vocabulary、アカデミック・スキルの鍛錬、言語学に関する学び						
授業の概要	本講はアカデミック・スキルのトレーニング、英語力の向上、そして言語学の分野に関する基礎的な知識の習得という 3 つの大きな柱から構成されている。英語力を高める目的でテキストは英語で書かれた言語学の入門書が指定されている。さらに TOEIC 関連の語彙も学期を通して学び、また総合的な英語力を英字新聞などの記事を利用しながら養っていく。同時に学生たちはテキスト内で自分の担当するチャプターをレジュメにまとめ、口頭発表をすることで、また他の学生の発表チャプターに関しては事前にチャプター・サマリーを書くことで、発表の仕方を学ぶとともに言語学の分野について広く学んでいく。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 Course goals】 上記の「概要」で述べたアカデミック・スキルの向上に関して、学生たちはチャプター・プレゼンテーションを通して、発表の仕方やレジュメの作り方、また発表後のディスカッションの仕方を学ぶ。英語力に関しては、学生たちは英語で書かれたテキストを通し、専門的な内容を英語で読むということへの慣れができる。また英字新聞や雑誌の記事を使い chunk-reading や chunk-writing、和訳や reaction を書くなどの言語活動をする中で英語力の底上げが可能となる。そして何よりも次年度のゼミⅠ、Ⅱで扱うことになる社会言語学をはじめとする言語学の領域を概観することで、この分野の基礎固めが可能となる。 【到達目標 Learning objectives】 学生たちはプレゼンテーションに向け、英語で書かれたテキストをどのようにまとめるべきかについて、担当者のサポートを得ながらしっかりと理解し、それをレジュメづくりに活かすことができるようになる。ディスカッションについても、聞き手として単なる意見交換をするのではなく、発表の内容をクリティカルにとらえ、自らの意見や見解を発表者にわかりやすく伝えられるようになる。英語学習に関しては、学生たちは課題として出される chunk-reading や chunk-writing を通し、英語の文構造や語の配列を徹底的に学ぶ。それにより英語のテキストに対する理解力とスピードが上がる。そして言語学の分野に関して、チャプター・プレゼンテーションとチャプター・サマリーを通してその分野の全体像を把握することができる。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 Categories】 ・英語の課題およびその他の提出物：20% ・英単語クイズ：20% ・チャプター・プレゼンテーション（発表）& その後のディスカッション：20% ・チャプター・サマリー（当該チャプターの要約）：20% ・期末ペーパー：20% 【評価基準 Criteria】 ・英語課題：英字新聞の記事を使った、読む、書く、和訳、ボキャビルの総合的言語学習が毎週、十分な量と回数実行できたかどうか問われる。 ・英単語クイズ：TOEIC Test 用の vocabulary 学習が日々課せられるが、その理解、定着がなされているかが問われる。 ・発表：自らが担当するチャプターの内容がわかりやすく、また大学レベルにふさわしいかたちでまとめられているか（概念・理論・用語などの定義が言語例とともに説明されているか、レジュメの基本的な書き方に沿っているか、著者による見解と自分の考えが明確に区別されているか、参考文献リストがあるかどうか等）が問われる。 ・サマリー：発表者以外は全員その週の発表チャプターを読み、そのサマリーを提出することが課せられるのだが、提出回数およびその内容の出来によって評価される。 ・期末ペーパー：自分がプレゼンテーションで扱ったテーマについて、さらに文献を読み、より深いあるいは広いスコープでレポートに仕上げられているかが問われる。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Course overview	Lecture, discussion	Read the first section of the textbook
2	On Pre-seminar: Introduction Talking about learning academic skills Talking about assignments 研究倫理について	Lecture, discussion group work, doing exercises	Review the handout, Start the assignments
3	What is Linguistics? 言語学とは	Teacher's lecture, discussion, voc. quiz	Textbook (chapter 1): read and understand
4	How English Has Changed over the Centuries <History of English> 英語の歴史	Students' presentation, discussion, feedback, lecture	Textbook (chapter 2): read the chapter and write a chapter summary
5	The Sounds of English <Phonetics and Phonology> 人間の出す音	Students' presentation, discussion, feedback, lecture	Textbook (chapter 9): read and write a chapter summary
6	How Words Are Made <Morphology> 語形成	Students' presentation, discussion, feedback, lecture, voc. quiz	Textbook (chapter 3): read and write a chapter summary
7	How English Phrases Are Formed <Syntax 1> 句構造・文構造	Students' presentation, discussion, feedback, lecture	Textbook (chapter 5): read and write a chapter summary
8	Review of the first half 前半のまとめ	Teacher's lecture, discussion, voc. quiz	Review the chapters 1, 2, 3, 5, and 9. Check their CSs again.
9	How Words Mean <Semantics 1> 語の意味	Students' presentation, discussion, feedback, lecture	Textbook (chapter 4): read and write a chapter summary
10	How to Communicate with Other People <Pragmatics> 発話の意味	Students' presentation, discussion, feedback, lecture	Textbook (chapter 8): read and write a chapter summary
11	Regional Varieties of English: <Sociolinguistics 1> 地域方言	Students' presentation, discussion, feedback, lecture, voc. quiz	Textbook (chapter 10): read and write a chapter summary
12	English in Society <Sociolinguistics 2> 社会方言	Students' presentation, discussion, feedback, lecture	Textbook (chapter 11): read and write a chapter summary
13	How English is Acquired <Psycholinguistics> 言語習得	Students' presentation, discussion, feedback, lecture	Textbook (chapter 12): read and write a chapter summary
14	Review of the second half 後半のまとめ Course review	Teacher's lecture, discussion, feedback, voc. quiz	Review the chapters 4, 8, 10, 11, and 12. Check their CSs again. Work on the term paper
15	Reflection Time	Do activities for students' reflection	Continue working on the term paper

テキスト	影山太郎、ブレント・デ・シェン、日比谷潤子 <i>First Steps in English Linguistics</i> (くろしお出版)
参考書	長谷川瑞穂 (編著) 『はじめての英語学』 (研究社) 飯野公一ほか (著) 『新世代の言語学』 (くろしお出版)
その他 特記事項	「言語学概論」の科目を履修済みか同時履修が望ましい。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	神谷 雅仁
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4215	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	社会言語学、言語バリエーション、社会方言、地域方言、言語使用、バイリンガリズム						
授業の概要	本講では専門書を英語で読む、自己研究テーマに沿って発表をする、様々な言語事象についてディスカッションをする、専門分野に関するレポートを作成するなどのアカデミック・スキルズ修練のための活動を、社会言語学という専門分野の内容を題材に行っていく。学期前半は社会言語学に関する指定テキストを輪読しながら、言語使用とそのバリエーションについて学び、後半は社会言語学の分野から各自がテーマを選択し、そのテーマに沿って文献を調べ、まとめ、そしてその発表を行っていく。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 本講の掲げる目標のひとつは大学という場での学問や専門的な研究を始めるために必要とされる様々なアカデミック・スキルズのトレーニングであるため、学生たちは各自 2 回の発表を通して、自分が理解した内容や得た知識を相手に分かりやすく伝えることができるようになる。同時にテーマとして設定されている社会言語学の分野への理解を深めることができる。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 本講における発表を通して、学生はレジュメの作成、発表時の注意点、先行文献の使い方、発表後のディスカッションや質疑応答の進め方、質問に対する答え方、自らの意見の整理の仕方などを習慣づけられ、自らできるようになっていく。また専門分野に関する学期末レポートを作成する中で、先行研究の重要性や自らの意見・主張の大切さ、文献を批判的に見る力、文献リストの書き方などを学び、実践していく。また進路という観点からも、編入希望者の中で特に英語学や言語コミュニケーション系の学科に興味を持っている学生は、言語の分野における基礎研究や個別研究の一部を垣間見ることになり、それは自らの編入に対する志望動機の明確化と専門知識の集積につながっていく。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 ・ 発表 1 (Textbook <i>Sociolinguistics</i> by Spolsky) : 20% ・ 発表 2 (自己研究テーマ) : 20% ・ 授業参加・提出物 (Post-presentation discussion, chapter summary) : 15% ・ 学期末レポート (Term paper) : 25% ・ Article Note: 20% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 ・ 発表 1, 2 では、発表の進め方、およびレジュメの出来、またディスカッション時の受け答えの良し悪しも見ていく。 ・ 授業参加は聞き手として発表者にどのようなフィードバックを返すことができるかに着目し、特に批判的な視点をともなうフィードバックに高い評価が与えられる。 ・ Article Note は既定回数のエントリーが達成できたかどうか評価に反映する。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Course overview 研究倫理について	Lecture, discussion	Review the syllabus and start reading ch.1 of the textbook
2	The social study of language	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 1): read and write a chapter summary
3	The ethnography of speaking and the structure of conversation	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 2): read and write a chapter summary
4	Locating variation in speech	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 3): read and write a chapter summary

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
5	Styles, gender, and social class	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 4): read and write a chapter summary
6	Bilinguals and bilingualism	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 5): read and write a chapter summary
7	Societal multilingualism	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 6): read and write a chapter summary
8	Applied sociolinguistics	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 7): read and write a chapter summary
9	自己研究テーマに関する発表	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
10	自己研究テーマに関する発表	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
11	自己研究テーマに関する発表	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
12	自己研究テーマに関する発表	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
13	自己研究テーマに関する発表	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
14	自己研究テーマに関する発表	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
15	Course review On writing the term paper Reflection Time	Lecture, discussion Group work	Work on the term paper

テキスト	Spolsky, B. <i>Sociolinguistics</i> (Oxford U.P.).
参考書	東照二『社会言語学入門』（研究社）

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	神谷 雅仁
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4215	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	社会言語学、言語バリエーション、言語と年齢、Genderlect、地域方言、外来語使用						
授業の概要	ゼミナールⅠで基本的なアカデミック・スキルのトレーニングと社会言語学の分野に関するテーマの絞り込みを終えた学生たちは、ゼミⅡで本格的に自己研究を開始する。最終目標であるゼミ論文の作成に向け、学生たちは学期中に計3回の発表（2回の中間報告と1回の最終発表）を行いながら、自らの研究を進めていく。毎回の授業は3～4名の学生の発表とディスカッションで構成され、最後にひとり一人に対し、担当教員よりフィードバックがなされる。ゼミ論文の最終提出は1月下旬。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 本講では学びの集大成としてゼミ論文の作成を課しているが、学生たちは自らの自己研究に必要な様々な知識やスキルを専門書の読書や授業内での発表などを通じて修得する。同時に論文のテーマを言語学関連に限定しているため、言語に関する高い専門性を身に着けることができる。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 本講を通して学生はゼミ論文作成という大きな目標を掲げ、それを達成するため計画的にそして確実に必要な作業を進めていくことを学ぶ。具体的には先行研究の収集、論文構成の決定（仮説やデータ収集法）、実際のデータ収集、そして実際の執筆作業など論文完成までの長い工程の中をひとつずつのステップを着実に踏み、最終的に自らの計画した目標を達成する。同時にゼミ論文の作成や発表の機会を通し、自らのテーマ設定の仕方や先行研究の重要性について学ぶ一方で、既存の主張や考え方に対して批判的な視点も養われていく。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 ・ゼミ論文：60% ・発表（3回）およびディスカッション：30% ・授業参加、提出物：10% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 ・ゼミ論文：全体の構成を含め、一つの論文として成り立っているかに評価の主眼が置かれる。 ・発表：自らの研究内容をわかりやすく説明しているか、研究内容に関して質問された際、過不足なく答えているか、聴衆として発表内容に対してコメントや質問をしているか、等 ・積極的な授業への参加があるかどうか、また提出物が期限内に、そしてその趣旨を理解し、説明された通りに作成されているかどうか、等						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Course overview 研究倫理について	講義、ディスカッション	ゼミ論文についてのテーマ決め
2	ゼミ論文について テーマ決定	講義、ディスカッション、SAMPLE 提示	ハンドアウト復習
3	第1回プレゼンテーション Group 1	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
4	第1回プレゼンテーション Group 2	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
5	第1回プレゼンテーション Group 3	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
6	第1回プレゼンテーション Group 4	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
7	第1回プレゼンテーション Group 5	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
8	第1回プレゼンテーション Group 6	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
9	第2回プレゼンテーション Group 1	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
10	第2回プレゼンテーション Group 2	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
11	第2回プレゼンテーション Group 3	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
12	第2回プレゼンテーション Group 4	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
13	第2回プレゼンテーション Group 5	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
14	第3回プレゼンテーション Group 1～5	発表、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善
15	Course review Reflection Time	講義、ディスカッション、フィードバック	発表者：発表の準備および今後への改善

テキスト	テキストは使用せず。その代り、各回の発表者が配布する発表用レジュメ、および教員の準備する関連テーマについての配布物を使用する。
参考書	東照二『社会言語学入門』（研究社） 浜田麻里、平尾得子、由比紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）
その他 特記事項	「言語学概論」や「社会言語学」といった言語学関連の科目を単位取得していることが望ましい。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	T. Gould
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4209	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
キーワード	American Literature, American Culture						
授業の概要	This seminar focuses on American Literature and American Culture. In our first semester, students will learn how to do close readings of famous American short stories. These stories will serve as an entry into an exploration of American Culture. Students will also learn the basic literary ideas and terms necessary to discuss the stories, make presentations, and write reports about them. Students will learn to identify and compare different aspects of culture, including values, behaviors and beliefs. Also, in pre-zemi, students will learn how to talk about and understand in detail American culture in terms of communication, the education system, the workplace, and family life.						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 Students in this course will: * gain an in-depth understanding of American Literature and Culture * improve their reading skills * further develop their writing skills * practice and enhance their ability to participate in focused discussions on literary topics * develop presentation skills 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 By the end of this course students should be able to adequately explain and discuss the features of American culture that we have studied during the course. Additionally, they should be able to participate in a literary discussion based on the short stories we have studied. In a discussion of the type, they should be able to use literary terms, analysis, and be able to relate summary and detail points of particular stories.						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 Class Participation 15%, Mid-Term Report 15%, Final Report 30%, Presentation 1 15%, Presentation 2 25% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 Class participation; display a willingness to participate and an understanding of the cultural and literary topics we study in class, engage in discussions, listen respectfully and attentively to other students and to the teacher; Reports: complete reports by the deadline, at an appropriate length, using structural features of writing that we discuss in class; presentations: make slides with appropriate amount and quality of information, speak in a clear, loud voice, do not rely overly much on notes and show a deep understanding of the topic.						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Who studies culture? Different views of learning culture, generalizations and stereotypes	Short lecture, pair work discussion	PRINT: Who studies culture? GAS: 'Before You Read' p. 2
2	<i>The Gift of the Magi</i> by O. Henry, different views of learning culture, big-C and little-c	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 8-11
3	Values application, the formation of values in a society	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 14 PRINT: Diff views of cult.
4	<i>Love of Life</i> by Jack London Choosing an independent study novel	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 22-26
5	Consumerism in the United States, thrifty shopping, credit cards, values application	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 27 PRINT: Big-C, Little-c
6	<i>The Story of an Hour</i> by Kate Chopin Prepare for 'Book Club' sessions; the American workplace, different types of occupations in the U.S.	Short discussion and Presentation 1	GAS: Exercises on pages 34-38 PRINT: Generalizations and stereotypes

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
7	Speaking out: how Americans communicate, American conversation, nonverbal communication, earnings and benefits	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 40 PRINT: How to talk about culture
8	<i>The Journey to Hanford</i> by William Saroyan, The American education system, higher education	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 49-54
9	<i>The Tell-Tale Heart</i> by Edgar Allan Poe 'Book Club' session (discuss novel)	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 56 PRINT: express opinions
10	<i>Tom Whitewashes the Fence</i> by Mark Twain; philosophy of American education	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 63-68; PRINT: Values application
11	<i>A White Heron</i> by Sarah Orne Jewett; organization and enrollment in Am. schools	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 70 PRINT: form. of val. in soc.
12	<i>Of the Coming of John</i> by W.E.B. Du Bois; family life in the United States, family structures	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 84 GAS: Exercises on pages 77-82; PRINT: How Am. comm.
13	<i>The Lady, or the Tiger?</i> By Frank R. Stockton, changing family structures, the older generation	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 98 GAS: Exercises on pages 91-96; PRINT: speaking out
14	Individual Presentations	Give presentation 2; group discussion	GAS: Exercises on pages 109-114, prepare disc questions
15	Individual Presentations & Reflection Time	Give presentation 2; group discussion	Prepare discussion questions, review outline for presentations
テキスト	Draper, C.G. <i>Great American Stories 1</i> (Longman).		

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	T. Gould
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4209	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	American Literature, American Culture						
授業の概要	This seminar continues to expand our horizons in the study of American Literature and American Culture. In Seminar 1, students will continue to develop close reading skills by exploring famous American short stories. These stories will provide some of the material we use to generate discussions and research about American Culture. Students will continue to expand their vocabulary of literary ideas and terms necessary to discuss the stories, make presentations, and write reports. Students will learn to identify and compare different aspects of culture, including values, behaviors and beliefs. Also, in Seminar 1, students will continue to practice how to talk about and understand in detail American culture in terms of communication, the education system, the workplace, and family life.						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 Students in this course will: * gain an in-depth understanding of American Literature and Culture * improve their reading skills * further develop their writing skills * practice and enhance their ability to participate in focused discussions on literary topics * develop presentation skills 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 By the end of this course students should be able to adequately explain and discuss the features of American culture that we have studied during the course. Additionally, they should be able to participate in a literary discussion based on the short stories we have studied. In a discussion of the type, they should be able to use literary terms, analysis, and be able to relate summary and detail points of particular stories.						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 Class Participation 15%, Mid-Term Report 15%, Final Report 30%, Presentation 1 15%, Presentation 2 25% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 Class participation; display a willingness to participate and an understanding of the cultural and literary topics we study in class, engage in discussions, listen respectfully and attentively to other students and to the teacher; Reports: complete reports by the deadline, at an appropriate length, using structural features of writing that we discuss in class; presentations: make slides with appropriate amount and quality of information, speak in a clear, loud voice, do not rely overly much on notes and show a deep understanding of the topic.						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	American literature / culture review lecture; course overview; course guidelines and expectations; reading aloud	Short lecture, pair work discussion	PRINT: Using forms of address GAS: 'Before You Read' p. 2
2	<i>The Romance of a Busy Broker</i> By O Henry; vocabulary guessing strategies, word morphology	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 7-12 PRINT: Proxemics, Am. conversation
3	<i>The Ingrate</i> By Paul Laurence Dunbar; leisure time activities, activating background knowl.	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 14 PRINT: Am. small talk
4	Using <i>go</i> and <i>play</i> with various sports, suffixes and context, parts of speech	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 23-28; PRINT: Nonverbal comm.
5	<i>How I Went to the Mines</i> by Bret Hart; understanding figurative vs literal meaning, interrupting politely	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 30 PRINT: Body lang & hidden feelings
6	Presentations	Short discussion and Presentation 1	GAS: Exercises on pages 40-47

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
7	<i>Paul's Case</i> Willa Cather; survey – finishing sentences, recognizing signal words of cause & effect	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 50 PRINT: Silent message; GAS: Exercises on pages 60-66
8	<i>A Jury of her Peers</i> by Susan Glaspell; history of extreme sports, Americans and fitness vs inactivity and obesity	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 68; PRINT: Leisure time; GAS: Exercises on pages 78-84
9	<i>The Whale Hunt</i> By Herman Melville; finding information on the internet	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 86 PRINT: Interrupting politely
10	American education system II, using an English-English dictionary, recognizing pronoun reference words	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 95-101; PRINT: American educational system
11	<i>Paste</i> By Henry James; using abbreviations and symbols in note-taking, paraphrasing sent.	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 104, PRINT: phil. of Am ed.
12	Enrollment in American schools, American higher education, finding information in complex schedules	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 116-122; PRINT: Organization of American schools
13	<i>The Lost Phoebe</i> By Theodore Dreiser; problems in American Education, techniques for paraphrasing	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 124 GAS: Exercises on pages 91-96; PRINT: Earning a living
14	Presentations	Give presentation 2; Group discussion	Prepare discussion questions, review outline for presentations
15	Presentations & Reflection Time	Give presentation 2; Group discussion	Prepare discussion questions, review outline for presentations
テキスト	C.G. Draper. <i>Great American Stories 2</i> (Longman).		

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	T. Gould
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4209	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	American Literature, American Culture						
授業の概要	This seminar continues to expand our horizons in the study of American Literature and American Culture. In Seminar 2, students will continue to develop close reading skills by exploring famous American short stories. These stories will provide some of the material we use to generate discussions and research about American Culture. Students will continue to expand their vocabulary of literary ideas and terms necessary to discuss the stories, make presentations, and write reports. Students will learn to identify and compare different aspects of culture, including values, behaviors and beliefs. Also, in Seminar 2, students will continue to practice how to talk about and understand in detail American culture in terms of communication, the education system, the workplace, and family life.						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 Students in this course will: * gain an in-depth understanding of American Literature and Culture * improve their reading skills * further develop their writing skills * practice and enhance their ability to participate in focused discussions on literary topics * develop presentation skills 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 By the end of this course students should be able to adequately explain and discuss the features of American culture that we have studied during the course. Additionally, they should be able to participate in a literary discussion based on the short stories we have studied. In a discussion of the type, they should be able to use literary terms, analysis, and be able to relate summary and detail points of particular stories.						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 Class Participation 15%, Mid-Term Report 15%, Final Report 30%, Presentation 1 15%, Presentation 2 25% 【評価基準 <i>Criteria</i>】 Class participation; display a willingness to participate and an understanding of the cultural and literary topics we study in class, engage in discussions, listen respectfully and attentively to other students and to the teacher; Reports: complete reports by the deadline, at an appropriate length, using structural features of writing that we discuss in class; presentations: make slides with appropriate amount and quality of information, speak in a clear, loud voice, do not rely overly much on notes and show a deep understanding of the topic.						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	American literature / culture review lecture; course overview; course guidelines and expectations; reading aloud	Short lecture, pair work discussion	PRINT: Family life in US GAS: 'Before You Read' p. 2
2	<i>Breakfast</i> by John Steinbeck; values application, exchange student experience	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 7-14 PRINT: Traditional fam. struct
3	<i>A Day's Wait</i> by Ernest Hemingway; earning a living, the American workplace	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 16 PRINT: Changing Am family
4	<i>April Showers</i> by Edith Wharton; occupations, statistics, vocabulary development	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 22-28
5	<i>Rip Van Winkle</i> by Washington Irving; recognizing and using different word forms	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 48 PRINT: Debate cont. issues
6	Presentations	Short discussion and Presentation 1	GAS: Exercises on pages 62-68

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
7	<i>The Wives of the Dead</i> by Nathaniel Hawthorne; scanning a reading and news article for specific info	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 70 PRINT: Statue of Liberty
8	<i>Nine Needles</i> by James Thurber; filling in an outline of a reading, occupations: past and present	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 79-88; PRINT: Old Glory (flag)
9	<i>A Mystery of Heroism</i> by Stephen Crane; , industrialization in the U.S, avoiding sexist language	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 106 PRINT: Mt. Rushmore & Bald Eagle
10	Predicting syllable stress, white collar, blue collar, outlining	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 118-124; PRINT: Santa Claus / EB
11	<i>A Visit of Charity</i> by Eudora Welty; participating in an American group discussion	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 126 PRINT: Hallow. / Valent.
12	Interpreting information on a graph, making teamwork work, family life in the US, writing descriptive paragraph	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 136-142; PRINT: Good Luck / Bad Luck
13	<i>The Black Ball</i> By Ralph Ellison; recognizing synonyms, evaluating credibility, skimming for main ideas	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 144 GAS: Exercises on pages 157-163; PRINT: Wedding superst.
14	Individual Presentations	Give presentation 2; Group discussion	Prepare discussion questions, peer review pres.
15	Individual Presentations & Reflection Time	Give presentation 2; Group discussion	Prepare discussion questions, peer review pres.
テキスト	C.G. Draper. <i>Great American Stories 3</i> (Longman).		

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	C. Oliver
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4205	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
キーワード	multiculturalism, immigration, ethnicity, identity, vocabulary, presentation skills						
授業の概要	In this course, students will read about and discuss various topics related to multiculturalism—such as immigration, ethnicity, discrimination, and cultural identity. While doing so, students will build up their vocabulary, improve their ability to discuss complex cultural and social issues in English, and develop their basic research skills. Each student will do three presentations in English during the semester.						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 Students will learn about “multiculturalism” in various countries, improve their ability to understand and discuss social and cultural issues in English, and develop basic research and presentation skills. 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 • appropriately use key English vocabulary from readings related to social and cultural issues; • summarize important information from readings about social and cultural issues; • express one’s own views on multiculturalism-related issues in the world today; • appropriately use information from books or other research sources; • organize information from research into an outline for a presentation; • deliver a short, well-organized presentation with good delivery.						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 Participation (35%), Homework (35%), Presentations (30%). 【評価基準 <i>Criteria</i>】 • Participation: active involvement in discussions and other everyday class activities, effort to regularly use English, appropriate use of vocabulary from readings, summarizing of information, expression of own views; • Homework: completed thoroughly and according to instructions, submitted on time, appropriate use of vocabulary from readings, summarizing of information, expression of own views, appropriate use of information from research sources; • Presentations: appropriate use of vocabulary, summarizing of information, expression of own views, organization (including “preview” in Introduction), appropriate use of research sources, good delivery (including voice, eye contact, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Orientation to the course. Perspectives on multiculturalism.	explanation by teacher, small-group work	Read the course syllabus.
2	Mini-Research Project about one country. Presentation basics #1 (basic organization, delivery, visuals).	lecture, small-group discussion	Do light research, prepare homework.
3	Presentation #1 (half of students).	presentations, small- group discussion	Prepare presentation.
4	Presentation #2 (half of students).	presentations, small- group discussion	Prepare preparation.
5	Explanation of Presentation #2. Presentation basics #2 (“preview” of presentation content, etc.). Research basics (using sources, avoiding plagiarism.)	lecture, small-group work, in-class writing	Review handouts distributed in class today; start preparing for Presentation #2.
6	Case study: reading and discussion.	small-group discussion, lecture	Read case study material. Prepare Fact Sheet (Canada / Australia).

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
7	Readings and discussion. Presentation #2: Settler-states (Canada, Australia, Brazil, Mexico).	small-group discussion, presentations	Prepare presentation. Read handout, write summary. Prepare Fact Sheet (Sweden / France.)
8	Readings and discussion. Presentation #2: Europe zone (England, France, Sweden, Turkey).	small-group discussion, presentations	Prepare presentation. Read handout, write summary. Prepare Fact Sheet (Malaysia / Indonesia.)
9	Readings and discussion. Presentation #2: Asian cases (Malaysia, Indonesia, India, Philippines).	small-group discussion, presentations	Prepare presentation. Read handout, write summary. Prepare Fact Sheet (Switzerland / South Africa.)
10	Readings and discussion. Presentation #2: Other complicated cases (Switzerland, South Africa, Israel, Egypt). Explanation of Presentation #3.	small-group discussion, presentations	Prepare presentation. Read handout, write summary.
11	Preparation for Presentation #3.	individual guidance from teacher, in-class writing	Do research for presentation; prepare outline.
12	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation and handout.
13	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation and handout.
14	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation and handout.
15	Reflection Time activities. Remaining presentations, if any. Recap of semester. Overview of Seminar I and Seminar II.	small-group work, in-class writing, lecture	Review materials studied to date.

テキスト	Handouts (mainly news articles) will be provided by the teacher. To prepare for presentations, students will find books or other materials to read.
参考書	A. Rattansi. <i>Multiculturalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). <i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i> (Sophia University Junior College Division).
その他 特記事項	All work for this course is to be done in English. Homework must be submitted at the very beginning of class.

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	C. Oliver
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4205	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	multiculturalism, research skills, presentation						
授業の概要	Building upon what was learned in the Pre-seminar, in this course students will investigate various key issues related to multiculturalism. These may include, for instance, illegal immigration, ethnic identity, religious intolerance, racism, language laws, and multicultural education. Through independent study and presentations during the semester, students will develop their research and academic presentation skills.						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 Students will learn to summarize, organize, present, and ask questions about information that they have found in books and other sources. They will also improve their ability to discuss their own study / career interests. 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 By the end of the semester, students will be able to summarize both general and specific information about an issue and about that issue in a specific country; ask good questions to guide their own future study of an issue; prepare a well-organized outline for a presentation; do a well-organized 7-10 minute presentation with good delivery; discuss their own study / career interests in relation to specific universities / companies that they would like to enter.						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 Participation in class activities (45%), Written work such as presentation handouts (20%), Presentations (35%). 【評価基準 <i>Criteria</i>】 • Participation: active involvement in everyday discussions and class activities; effort to regularly use English; shows improvement in ability to discuss study / career interests; • Written work: completed thoroughly and according to instructions, submitted on time, summarizes both general and focused information, well organized, includes appropriate study questions; • Presentations: appropriate topic, appropriate length, summarize both general and specific information, well organized (following outline), include appropriate study questions, demonstrate good delivery (eye contact, voice, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Orientation: perspectives on multiculturalism. Explanation of Presentation #1 and #2.	explanation by teacher, small-group discussion	Read syllabus carefully.
2	Talking about one's study / career interests (with follow-up on class 7).	lecture, small-group discussion	Review class notes, begin preparing for presentation.
3	Presentation preparation. Review: research basics.	lecture, small-group discussion	Review class notes, continue preparing for presentation.
4	Presentation #1. Topics: (1) Immigration and (2) Identity.	presentations, small- group discussion	Prepare presentation, including handout.
5	Presentation #1. Topics: (3) Religion and (4) Attitudes / Ideologies.	presentations, small- group discussion	Prepare presentation, including handout.
6	Presentation #1. Topics: (5) Policies / Laws and (6) Social Institutions.	presentations, small- group discussion	Prepare presentation, including handout.
7	Asking good questions for research. Discussing one's study / career interests (follow-up from class 2). Explanation of Presentation #3.	lecture, small-group discussion, individual guidance from teacher	Review class notes, prepare written statement of study / career interests.
8	Presentation #2. Topics: (1) Immigration, (2) Identity, and (3) Religion.	presentations, small- group discussion	Prepare presentation, including handout.

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
9	Presentation #2. Topics: (4) Attitudes / Ideologies, (5) Policies / Laws, and (6) Social Institutions.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
10	Research basics: using information from sources (avoiding plagiarism).	lecture, small-group work	Review class notes.
11	Presentation preparation.	small-group discussion, individual guidance	Prepare draft of presentation outline.
12	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation content, handout / outline.
13	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation content, handout / outline.
14	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation content, handout / outline.
15	Recap of Spring semester, reflection activity, planning for Fall semester.	explanation by teacher, small-group discussion	Review class notes, handouts.
テキスト	None. To prepare for presentations, students will select their own materials to read.		
参考書	A. Rattansi. <i>Multiculturalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).		
その他 特記事項	All work for this course is to be done in English. Homework must be submitted at the very beginning of class.		

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	C. Oliver
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4205	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	multiculturalism, independent research project, presentation, report						
授業の概要	In this course, each student will do an independent research project on a topic related to multiculturalism. For this, students will choose their own topic, think of their own research question, and find related books and other materials to read. In addition to two short presentations, each student will also do a longer final presentation and write a report about her research findings.						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 Students will develop their ability to do an independent research project and to discuss their study interests. 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 • formulate a suitable question for an independent research project; • conduct reading-based research focused on that research question; • summarize key information related to the research topic; • describe and analyze “data” related to the research topic; • organize information in a manner suited to a research report; • explain one’s study interests in relation to ideas and information learned from books or other materials.						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 Participation (25%), Homework (25%), Presentations (25%), Report (25%). 【評価基準 <i>Criteria</i>】 • Participation: active involvement in discussions and other everyday class activities, effort to regularly use English, effort to explain one’s study interests in relation to ideas and information learned from books or other materials; • Homework: completed thoroughly and according to instructions, submitted on time, summarizes key information related to the research topic; • Presentations and Report: suitability of research question; evidence of research focused on the research question; summarizing of information related to the research topic; description and analysis of “data” related to the research topic; organization of information.						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Overview of Fall semester. Explanation of presentation #1.	explanation by teacher, small-group discussion	Prepare “Research Project Topic” document.
2	Discuss Research Project Topic document prepared by each student.	explanation by teacher, small-group discussion	Submit: weekly reading report.
3	Short presentation #1: your independent research topic.	presentations, small-group discussion	Submit: weekly reading report. Prepare presentation.
4	Short presentation #1: your independent research topic. Explanation of Presentation #2.	presentations, small-group discussion	Submit: weekly reading report. Prepare presentation.
5	Short presentation #1: your independent research topic.	presentations, small-group discussion	Submit: weekly reading report. Prepare presentation.
6	Short presentation #2: describing and analyzing “data.”	presentations, small-group discussion	Submit: weekly reading report. Prepare presentation.
7	Short presentation #2: describing and analyzing “data.”	presentations, small-group discussion	Submit: weekly reading report. Prepare presentation.
8	Short presentation #2: describing and analyzing “data.”	presentations, small-group discussion	Submit: weekly reading report. Prepare presentation.

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
9	Organizing your final report. Review: avoiding plagiarism.	lecture, small-group work	Review handouts provided in class.
10	Writing an Introduction (including “thesis statement”) and Conclusion. Explanation of final presentation.	lecture, small-group work	Review handouts provided in class.
11	Prepare for final presentation, final report	individual guidance from teacher	Write draft of presentation outline.
12	Final presentation: your research findings	presentations, whole-class discussion	Prepare presentation, handout.
13	Final presentation: your research findings	presentations, whole-class discussion	Prepare presentation, handout.
14	Final presentation: your research findings	presentations, whole-class discussion	Prepare presentation, handout.
15	Reflection Time activities, recap of semester.	small-group discussion, in-class writing	Submit: final report.

テキスト	None. For their own independent research projects, students will choose their own books and other materials to read.
参考書	A. Rattansi. <i>Multiculturalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
その他 特記事項	All work for this course is to be done in English. Homework must be submitted at the very beginning of class.

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	杉村 美佳
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4220	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	国際教育学研究、国際教育協力、開発教育、参加型学習の歴史と現状、総合学習						
授業の概要	国際教育学研究の基礎的な理論や方法論を学ぶ。具体的には、途上国への国際教育協力のあり方を検討したうえで、先進国における参加型学習の歴史や現状を理解し、途上国の問題解決に参加できる能力と態度を養う教育のあり方を考察する。前半は、テキストに基づいてグループ研究発表を行い、国際教育学研究の基礎理論について理解を深める。後半では、英文原書の講読を進め、途上国の女子教育について理解を深めるとともに、2年生のゼミ論文の発表に参加し、論文の書き方を学ぶ。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 国際教育協力や開発教育のあり方、参加型学習の歴史や現状を理解する。さらに国際的視点から日本の教育政策や教育実践などの方向性を探ることを通して、国際教育学研究の基礎的な理論と方法論を習得する。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ①テキストの内容を整理してレジュメを作成し、相手に効果的に伝わる発表や議論をすることができる。 ②国際教育協力や開発教育のあり方、参加型学習の歴史や現状に関する知識を習得し、国際的視点から教育事象を論理的、批判的に分析し、考察することができる。 ③英文講読では、教育学の専門用語を理解し、途上国の女子教育の現状と課題を理解するなど、教育学の英文原書を読む力を身につける。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 討論への参画（20%）、研究発表（30%）、英文講読（30%）、リアクションペーパー（20%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 討論への参画：研究発表や論点に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 研究発表：テキストの内容を的確に整理してレジュメを作成し、効果的な発表を行っているか。討論の論点を提示しているか。 英文講読：英文原書の内容を的確に把握し、途上国の女子教育の現状と課題を理解できているか。 リアクションペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	国際教育学の理論と研究倫理	講義、ディスカッション	テキスト序章の講読 発表の準備
2	援助と開発の歴史	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第1章の講読 発表の準備
3	開発プロジェクトのタイプ	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第3章の講読 発表の準備
4	参加型開発とは	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第4章の講読 発表の準備
5	日本の NGO と参加型開発	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第5章の講読 発表の準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
6	日本の開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第6章の講読 発表の準備
7	総合学習とESD	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第7章の講読 発表の準備
8	参加型学習の歴史的系譜	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第8章の講読 発表の準備
9	自分・地域・世界をつなぐ学び	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第9章の講読 発表の準備
10	これからの国際協力と開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト終章の講読 発表の準備
11	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.285-287 の講読
12	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.291-293 の講読
13	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.294-296 の講読
14	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.297-299 の講読
15	まとめ、リフレクションタイム	学修成果の振り返り ポートフォリオ記入	レポートの作成

テキスト	田中治彦『国際協力と開発教育―「援助」の近未来を探る』（明石書店） King, Elizabeth M., <i>Women's Education in Developing Countries</i> (World Bank).
参考書	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）、菅野琴・西村幹子・長岡智寿子編著『ジェンダーと国際教育開発 ―課題と挑戦―』（福村出版）
その他 特記事項	発表の1週間前までに教員にレジメを提出し、指導を受けること。 ゼミ生には討議への活発な参加を求める。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	杉村 美佳
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4220	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	国際教育学研究、国際教育協力、開発教育、参加型学習の歴史と現状、総合学習						
授業の概要	国際教育学研究の基礎的な理論や方法論を学ぶ。具体的には、途上国への国際教育協力のあり方を検討したうえで、先進国における参加型学習の歴史や現状を理解し、途上国の問題解決に参加できる能力と態度を養う教育のあり方を考察する。また、実際に開発教育ワークショップに参加し、開発教育の実践に必要な知識や技術を習得する。最後に各自自由にゼミ論文のテーマを設定し、構想発表を行う。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 国際教育協力や開発教育、参加型学習の歴史や現状を理解し、開発教育の実践に必要な基礎理論と技術を身につける。またゼミ論文のテーマを設定して文献を収集、論点を整理して論文の構想を練り上げる力を習得する。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ①先進国と途上国における教育問題と、歴史的・政治的・経済的背景との影響関係を分析し、問題を解決するための方法を考察することができる。 ②開発教育の基礎理論を理解した上で、実際に開発教育協会のワークショップに参加し、実践に必要な知識や技術を習得する。 ③ゼミ論文のテーマを設定して先行研究を整理し、研究課題や研究方法などの構想を適切にまとめることができる。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 討論への参画（10%）、テキスト発表（30%）、ゼミ論文の構想発表（30%）、リアクションペーパー・レポート（30%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 討論への参画：研究発表や論点に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 研究発表：テキストの内容を的確に整理して考察を加えたレジュメを作成し、効果的な発表を行っているか。 ゼミ論文の構想発表：ゼミ論文のテーマを適切に設定して先行研究を整理し、研究課題や方法などの構想を論理的にまとめているか。 リアクションペーパー：論題について発表内容をふまえて論理的に考察できているか。 レポート：文献を適切に要約して論点を整理し、自分の意見を論理的に述べているか。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	国際教育学の理論と研究倫理	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト序章の講読 発表の準備
2	援助と開発の歴史	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第1章の講読 発表の準備
3	開発プロジェクトのタイプ	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第3章の講読 発表の準備
4	参加型開発とは	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第4章の講読 発表の準備
5	日本の NGO と参加型開発	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第5章の講読 発表の準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
6	日本の開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第6章の講読 発表の準備
7	開発教育ワークショップ	ワークショップ リアクションペーパー	ワークショップの振り返り
8	総合学習とESD	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第7章の講読 発表の準備
9	参加型学習の歴史的系譜	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第8章の講読 発表の準備
10	これからの国際協力と開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト終章の講読 発表の準備
11	ゼミ論文構想発表（1）、研究倫理	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
12	ゼミ論文構想発表（2）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
13	ゼミ論文構想発表（3）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
14	ゼミ論文構想発表（4）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
15	ゼミ論文構想発表（5）、リフレクションタイム	発表・ディスカッション 学修成果の振り返り	発表の準備

テキスト	田中治彦『国際協力と開発教育―「援助」の近未来を探る』（明石書店）
参考書	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）、菅野琴・西村幹子・長岡智寿子編著『ジェンダーと国際教育開発 ―課題と挑戦―』（福村出版）
その他 特記事項	発表の1週間前までに教員にレジュメを提出し、指導を受けること。 ゼミ生には討議への活発な参加を求める。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	杉村 美佳
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4220	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	先行研究の検討、研究課題・研究方法の設定、文献研究・調査、ゼミ論文の作成、発表						
授業の概要	プレ・ゼミナールおよびゼミナールⅠで学んだ国際教育学研究の基礎的な理論と手法を用いて実際にゼミナール論文を作成する。毎回発表者が研究成果を報告し、ゼミ生全員で課題を討議する。SJ 祭およびゼミ最終日にゼミ論文の発表会を行う。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 国際教育学研究の基礎的な理論と手法を用いて教育事象を論理的、批判的に考察し、ゼミナール論文を作成、完成させることを目標とする。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ①先行研究の検討、研究課題の設定、文献研究や各種調査などを通して論文作成に必要な知識、技法を習得し、研究論文の形に仕上げるができる。 ②研究内容を論理的に論述し、独自の考察を加え、説得力のある発表ができる。 ③毎回発表者が研究成果を報告し、ゼミ生全員で課題を討議することを通して、教育事象を論理的、批判的に分析し、考察できるようになる。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 討論への参画・リアクションペーパー（20%）、研究発表（40%）、ゼミ論文（40%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 討論への参画：研究発表に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 リアクションペーパー：論題について発表内容をふまえて論理的に考察できているか。 研究発表：研究内容を論理的に論述し、説得力のある発表になっているか。 ゼミ論文：先行研究の検討、研究課題の設定、研究方法、内容が論文の技法に即していて適切であるか。書式や提出期限を守っているか。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	ゼミ論文中間発表と討論（1）、研究倫理	発表・解説・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
2	ゼミ論文中間発表と討論（2）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
3	ゼミ論文中間発表と討論（3）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
4	ゼミ論文中間発表と討論（4）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
5	ゼミ論文中間発表と討論（5）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
6	ゼミ論文中間発表と討論（6）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
7	ゼミ論文中間発表と討論（7）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
8	ゼミ論文中間発表と討論（8）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
9	ゼミ論文発表と討論（1）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
10	ゼミ論文発表と討論（2）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
11	ゼミ論文発表と討論（3）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
12	ゼミ論文発表と討論（4）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
13	ゼミ論文発表と討論（5）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
14	ゼミ論文発表と討論（6）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備
15	ゼミ論文発表と討論（7）、リフレクシオンタイム	発表・ディスカッション 学修成果の振り返り	発表の準備
参考書	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）		
その他 特記事項	ゼミ生には討議への活発な参加を求める。発表の1週間前までに原稿を教員に提出し、添削を受けること。		

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	狩野 晶子
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4203	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	コミュニケーション言語教育、言語習得、児童英語教育、応用言語学						
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、言葉の教育、習得、運用の観点から言葉と人との関わりを扱う。プレゼミでは各自が自ら興味のあるテーマで研究を進める土台づくりとなる知識を応用言語学の観点から学び、そこから幅広く発展する分野の知識と関心を深め、2年次のゼミナールへの土台となる力を養う。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 興味関心のあるテーマについて文献を読み、文献資料に基づいて発表を行い、質疑応答ができるようになる。応用言語学のさまざまな関連テーマの内容について読み、調べ、発表することを通して言語と言語教育、言語習得の基礎について学ぶ。発表を通して効果的なプレゼンテーションのスキルを実践例から学ぶ。プレゼミでの発表、グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 グループや個人で発表をすることを通して、どのように発表準備をするか、聞き手にわかりやすく伝える発表とはどのようなものか、発表の手順と効果的な発表のために不可欠な要素について体得する。発表に際して資料を読み、十分に理解を深め、理解した内容をアウトラインとしてまとめレジュメを作成する過程で各自のテーマに沿った専門的知識を深める。他の学生の発表を聞き的確な質問やコメントができるよう、聞く際のポイントを学び、実践する。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 ①授業時の活動への参加姿勢（30%）、②リアクションペーパー及び相互フィードバック（30%）、③グループおよび個人プレゼンテーション（20%）、④期末課題（20%）。 【評価基準 <i>Criteria</i>】 ①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。 ②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすく的確な表現で文章化できる。 ③特定のテーマについて資料や文献を調べ、聞き手が内容を理解しやすい構成とヴィジュアル資料を作成し、興味・関心を共有できるように準備し発表、質疑応答を行える。 ④テーマに沿って調べた内容やテキストの要約を読み手を意識したわかりやすく的確な表現で文章化できる。さらに、発表等に活用することを念頭に置いて、所定の書式に沿って資料として作成できる。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	ガイダンス 発表グループと分担決め	講義、 グループワーク	テキスト①通読
2	テキストの読み進め方、具体的な発表の手法、研究倫理	グループワーク	テキスト①通読 発表準備
3	テキスト①をもとに発表・ディスカッション（1）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
4	テキスト①をもとに発表・ディスカッション（2）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
5	テキスト①をもとに発表・ディスカッション（3）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
6	テキスト①をもとに発表・ディスカッション (4)	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
7	テキスト①の総括、テキスト②について発表の進め方の指導	講義、講評 ディスカッション	相互フィードバック準備 リアクションペーパー
8	テキスト②をもとに発表・ディスカッション (1)	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
9	テキスト②をもとに発表・ディスカッション (2)	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
10	テキスト②をもとに発表・ディスカッション (3)	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
11	次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野を考える	グループワーク、講義、発表、講評	レポート提出準備 リアクションペーパー
12	次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野の発表 (1)	グループワーク、講義、発表、講評	発表準備、レポート提出 リアクションペーパー
13	次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野の発表 (2)	グループワーク、講義、発表、講評	発表準備、レポート提出 リアクションペーパー
14	次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野の発表 (3)	グループワーク、講義、発表、講評	発表準備、レポート提出 リアクションペーパー
15	振り返りとまとめ [リフレクション・タイム]	振り返り活動 教員による個別面談	総括（レポートとして提出）

テキスト	①白井恭弘『ことばの力学—応用言語学への招待』（岩波書店） ②上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーションな英語教育を考える：日本の教育現場に役立つ理論と実践』（アルク）
参考書	Garr Reynolds・熊谷 小百合『プレゼンテーション ZEN 第2版』（丸善出版）
その他 特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスマーケティング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ上智大学短期大学部ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	狩野 晶子
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4203	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	コミュニケーション言語教育、言語習得、児童英語教育、応用言語学						
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、言葉の教育、習得、運用の観点から言葉と人との関わりを扱う。プレゼミで学んだ基本的な知識をベースに、卒業課題となるゼミ論文作成へつながる個人のテーマを決め、内容を絞り込み深めてゆき、ゼミ II での発表、論文作成に向け準備を整える。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 各自の研究テーマについて研究調査の基本的な進め方を体得する。文献の探し方、引用の仕方、研究倫理を学び、資料を読み、理解し、内容について要旨をまとめる。発表を通じて効果的なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。発表、ディスカッション、グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 各自が興味関心のあるテーマについて文献を調べ、聞き手がその内容を理解し関心を共有できる発表と質疑応答を行う。発表者は担当箇所について十分に理解を深め、さらに他の文献・資料にもあたりレジュメを作成し発表準備を行う。聞く側は発表に基づいた的確な質問、コメントができるよう、聞く際のポイントを学び、実践する。発表の内容をもとにディスカッションを行う手法を学び、実践する。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 ①授業時の活動への参加姿勢（30%）、②リアクションペーパー及びフィードバック（30%）、③プレゼンテーション（20%）、④期末課題（20%）。 【評価基準 <i>Criteria</i>】 ①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすくて的確な表現で文章化できる。③特定のテーマについて資料や文献を調べ、聞き手が内容を理解しやすい構成とヴィジュアル資料を作成し、興味・関心を共有できるように準備し発表し、質疑応答を行える。④ゼミ論の中間報告として、テーマに沿って調べた内容やテキストの要約を読み手を意識したわかりやすくて的確な表現で文章化できる。さらに、発表等に活用することを念頭に置いて、所定の書式に沿った資料として作成できる。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	プレゼミ概観 各自が興味のあるテーマを考える	グループワーク	プレゼミテキスト復習 テーマ予備調査
2	各自が興味のあるテーマを調べ、深める 文献の探し方、研究倫理指導	グループワーク PC 室、図書館を利用	テーマ探し、文献検索 ブックリスト作成
3	プレゼンテーションスキルの具体的指導	講義、実践指導 PC 室を利用	ポイント要約 発表準備
4	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (1)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
5	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (2)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (3)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
7	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (4)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
8	プレゼンテーションの反省 各自のテーマの方向性の検討	省察、相互評価、 ディスカッション	リアクションペーパー
9	各自のテーマを深め、調べる	個別活動、面談 (教員による個別指導)	各自テーマを調べる
10	各自のテーマ・調べた内容について発表 とディスカッション (1)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
11	各自のテーマ・調べた内容について発表 とディスカッション (2)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
12	各自のテーマ・調べた内容について発表 とディスカッション (3)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
13	各自のテーマ・調べた内容について発表 とディスカッション (4)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
14	テキスト発表準備 [夏合宿にて発表]	ディスカッション、 グループワーク	テキストを読み、アウトラ イン作成準備
15	ゼミⅠの総括「リフレクションタイム」 ゼミⅡでの論文作成に向け目標設定	省察、相互評価、 ディスカッション	テーマに沿って発表アウト ライン作成

テキスト	上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーション型英語教育を考える：日本の教育現場に役立つ理論と実践』（アルク）
参考書	①白井恭弘『ことばの力学—応用言語学への招待』（岩波書店） ②Garr Reynolds・熊谷 小百合『プレゼンテーション ZEN 第2版』（丸善出版）
その他 特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスラーニング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ上智大学短期大学部ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	狩野 晶子
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4203	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	コミュニケーション言語教育、言語習得、児童英語教育、応用言語学						
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、プレゼミとゼミⅠで学んだ知識をベースに、各自が設定したテーマを調べ、発表の過程を通して内容をまとめ、卒業課題となるゼミ論文を完成させる。研究内容を学術論文の体裁に従ってまとめる具体的方法と、研究倫理、効果的なプレゼンテーションのスキルを併せて学ぶ。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 各自の研究テーマについて研究調査を進め、学術論文としての体裁を整えたゼミ論文を作成する。そのゼミ論文のアウトラインをゼミ最終発表として、パワーポイントスライドショー形式で他のゼミ生の前で発表する。発表、ディスカッション、グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 各自の研究テーマに沿って学びを深め、構成や書式などの基本的な規定を守ったうえで、他のゼミ生が内容を理解し関心を共有できるようなゼミ論文を書く。最終発表としてゼミ論文の概要を短く適切にまとめ、ヴィジュアル資料を活用し、聞く者にわかりやすく発表する。他者の発表を聞き手的確な質問、コメントをする力を養う。聞いた発表をもとにどのようにディスカッションを行うかを学び、実践する。今後の進路に向け、自律的、主体的学習者としての意識を持ち、実践する。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 ①授業時の活動への参加姿勢（30%）、②リアクションペーパー及びフィードバック（20%）、③プレゼンテーション（20%）、④期末課題（30%）。 【評価基準 <i>Criteria</i>】 ①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすくて確かな表現で文章化できる。③ゼミ論文の内容について聞き手が理解しやすい構成とヴィジュアル資料を活用した準備と発表、質疑応答を行える。④ゼミ論文として十分な文献や資料を調べ、所定の構成および書式に則った文章を作成できる。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	論文作成に向け進捗状況と課題点の確認	グループワーク 教員との個別相談	プレゼミテキスト復習 テーマアウトライン準備
2	論文作成に向け各自のテーマについてグループディスカッション、コメント	グループワーク	文献研究 テーマアウトライン準備
3	論文作成に向け各自のテーマに従って準備、研究倫理	個別活動 教員との個別相談	文献研究 テーマ概要発表準備
4	論文作成に向け各自のテーマの概要を発表、ディスカッション	学生発表、ディスカッション、講評	発表準備 リアクションペーパー
5	論文作成に向け各自のテーマの概要を発表、ディスカッション	学生発表、ディスカッション、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	最終プレゼンテーション（論文報告）準備（1）	個別活動、面談 （教員による個別指導）	発表準備 リアクションペーパー
7	最終プレゼンテーション（論文報告）準備（2）	個別活動、面談 （教員による個別指導）	発表準備 リアクションペーパー
8	最終プレゼンテーション（論文報告）準備（3）	個別活動、面談 （教員による個別指導）	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
9	学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (1)	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
10	学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (2)	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
11	学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (3)	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
12	学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (4)	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
13	学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (5)	学生発表、相互評価、講評	論文初校提出準備
14	論文初校提出：相互校正	相互校正、相互評価	論文初校修正、最終稿へ向け修正方針をまとめる
15	論文初校修正方針の確認 ゼミ総括「リフレクションタイム」	振り返り活動、ディスカッション	論文最終稿提出準備

参考書	①上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーションな英語教育を考える：日本の教育現場に役立つ理論と実践』（アルク） ②Garr Reynolds・熊谷 小百合『プレゼンテーション ZEN 第2版』（丸善出版）
その他 特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスマーケティング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ上智大学短期大学部ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	小林 宏子
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4204	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	マザーテレサ、神の愛、隣人愛、生き方の選択、使命、キリスト教ヒューマニズム						
授業の概要	テキスト講読を通して、マザーテレサの言葉や生き方から読み取れる行動原理を学び、キリスト教が目指す愛の理論と実践の可能性を考察する。また、発表やディスカッションを通して、人生や社会と向き合う上での視野を広げながら、各自の研究テーマを明確にしてゆく。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 マザーテレサの人生と活動をモデルとして、キリスト教が説く愛が、本来有している肯定的、創造的、未来志向的側面を理解するとともに、信仰者が人間的主体性を損なわずに超越的存在と関わることの可能性とその世界における意義を知ることができる。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ①キリスト教人間学のテーマに関するディスカッションにおいて自己の見解を表現できる。②キリスト教的愛の現代における究極的実践の模範であるマザーテレサの人生と活動の基本的要素を理解できる。③人間性に含まれる宗教的・超越的次元を、信仰という形で生きる際には、その実践方法や社会的影響にも注意を払う必要があることを知る。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業時の積極的参加 (25%)、テキスト講読の発表 (25%)、中間試験 (20%)、期末課題 (2,500 字程度の小論文) (30%) 【評価基準 <i>Criteria</i>】 授業時の積極的参加：ディスカッション時に活発な意見や質問を発表したこと。 発表：担当するテキストの単元内容を的確に理解し要約した上で、レジュメを作成し、ディスカッションのために、主題に沿った発展的質問を準備したこと。 中間試験：テキストの内容に沿って、マザーテレサの行動原理に示されるキリスト教的「神の愛」や「隣人愛」の基本的要素を理解したこと。 期末課題：キリスト教及び宗教に関する文献を最低一冊読み、宗教が社会に与える影響の視点から問いを立てて考察し、論理的な根拠を示しながら、自己の見解としてまとめることができること。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	オリエンテーション、課題の発表、マザーテレサの活動の源泉	講義、発表、自己紹介	夏季休暇中の課題発表準備 pp.i-xix を読む
2	Chapter 1 Dream It Simple, Say It Strong 研究倫理について	発表、ディスカッション	発表、ディスカッション準備、pp.1-13 を読む
3	Chapter 2 To Get to the Angels, Deal with the Devil	発表、ディスカッション	発表、ディスカッション準備、pp.14-24 を読む
4	Chapter 3 Wait! Then Pick Your Moment	発表、ディスカッション	発表、ディスカッション準備、pp.25-36 を読む
5	Chapter 4 Embrace the Power of Doubt	発表、ディスカッション	発表、ディスカッション、中間課題、pp.37-46 準備
6	Chapter 5 Discover the Joy of Discipline	発表、ディスカッション	発表、ディスカッション準備、pp.47-56 を読む
7	Chapter 6 Communicate in a Language People Understand	発表、ディスカッション	発表、ディスカッション準備、pp.57-71 を読む
8	Chapter 7 Pay Attention to the Janitor	発表、ディスカッション	発表、ディスカッション準備、pp.72-79 を読む

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
9	Chapter 8 Use the Power of Silence	発表、ディスカッション	発表、ディスカッション準備、pp.80-87を読む
10	Conclusion 中間試験	発表、ディスカッション	発表、ディスカッション準備、pp.89-106を読む
11	マザーテレサの言葉と思想	講義、ディスカッション	期末課題の準備
12	キリスト教的「神の愛」と「隣人愛」	講義、ディスカッション	期末課題の準備
13	個人発表	発表	問題意識、個人研究の分野と研究方法の発表準備
14	個人発表	発表	問題意識と個人研究の分野と研究方法の発表準備
15	まとめ、リフレクションタイム	講義、学修ポートフォリオ記入	期末課題提出

テキスト	RUMA BOSE & LOU FAUST. <i>Mother Teresa, CEO</i> (Berrett-Koehler Publishers, Inc.).
参考書	ルシンダ・ヴァーディ編・猪熊弘子訳『マザーテレサ語る』（早川書房） アンセルモ・マタイス『イエスを愛した女 マザー・テレサ』（現代書林）
その他 特記事項	各回の発表者は事前に担当教員と打ち合わせを行うこと。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	小林 宏子
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4204	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	聖書の人間観、人間の尊厳、神の似姿、Stewardship、キリスト教的隣人愛、異文化理解						
授業の概要	英米思想の中でキリスト教と関連、又は対立して発生した理念と、従来、日本的とされていた理念との差異を考察し明らかにすることで、国際化が進む状況において西欧の人々の思考と行動を理解する際に考慮すべき視点を学ぶ。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 キリスト教の背景を持つ英米の理念と日本的とされてきた理念との差異とその背景を理解することができる。また、双方の理念が本来、何を重視し、尊重してきたのかを理解することで、多文化共生社会における相互理解に役立つ視点を学ぶことができる。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ①西欧社会の理念と行動様式の特徴を、それらが目指す事柄と合わせて理解することができる。②日本的とされる行動様式の背後にある理念を理解し、異文化交流の際には、対話の姿勢で自分の見解を形成し、表現することができる。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業時の積極的参加（2%×15 回＝30%）、発表（20%）、中間試験（15%）、期末課題（2,500 字以上の小論文 35%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 ①授業時の積極的参加：発表やディスカッション時に活発な意見を発表したこと。 ②発表：担当する単元の内容を的確に理解し要約した上でレジュメを作成し、ディスカッションのために、主題に沿った発展的質問を準備したこと。 ③中間試験：テキストに沿って英米の理念と日本の理念の違いを理解したこと。 ④期末課題：授業内で扱った主題の一つを選び、関連する文献を読んだ上で、研究倫理を踏まえて小論文の形で論述できること。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	講義の概要説明と研究倫理について、 Chapter 1 Altruism:	講義、ディスカッション	pp.3-10 を踏まえて考察しリアクションペーパーを書く
2	Chapter 2 Spirit over Matter	講義、ディスカッション	pp.11-19 の準備
3	Chapter 3 World Stewardship	発表、講義、ディスカッション	pp.20-27 の準備、発表担当者は発表準備
4	Chapter 4 Positive Thinking in the Western Mind	発表、講義、ディスカッション	pp.28-35 の準備、発表担当者は発表準備
5	Chapter 5 Historicism	発表、講義、ディスカッション	pp.36-42 の準備、発表担当者は発表準備
6	Chapter 6 The Sacred Contract	発表、講義、ディスカッション	pp.43-50 の準備、発表担当者は発表準備
7	Chapter 7 Egalitarianism	発表、講義、ディスカッション	pp.51-58 の準備、発表担当者は発表準備
8	Chapter 8 Pragmatism	発表、講義、ディスカッション	pp.59-67 の準備、発表担当者は発表準備
9	Chapter 9 Rebellion against Authority	発表、講義、ディスカッション	pp.68-75 の準備、発表担当者は発表準備
10	Chapter 10 Traditional Japanese Lifestyle	発表、講義、ディスカッション	pp.76-83 の準備、発表担当者は発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	Chapter 11 Traditional Pioneer Lifestyle 中間試験	発表、講義、ディスカッション	pp.84-92 及び中間試験の準備、発表担当者は発表準備
12	Chapter 12 Classical Education and Debate	講義、ディスカッション	pp.93-100 の準備、期末課題の準備
13	Chapter 13 Modern Ideals in Education	講義、ディスカッション	pp.101-107 の準備、期末課題の準備
14	Chapter 14 Ideals of Communication	講義、ディスカッション	pp.108-116 の準備、期末課題の準備
15	Chapter 15 Causality and Responsibility 期末課題の提出、リフレクションタイム	講義、学修ポートフォリオ記入	pp.117-125 の準備、期末課題の準備と提出

テキスト	CARL BECKER『American and English Ideals 英米人の理念』（英宝社）
参考書	ペトロ・ネメシェギ『キリスト教とは何か』（聖パウロ女子修道会） 石井隆之『日本の宗教の知識と英語を身につける』（ベレ出版）
その他 特記事項	発表担当者は発表準備の前に必ず担当教員と打ち合せの時間を持つこと。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	小林 宏子
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4204	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	キリスト教、信仰、希望、愛、救い、永遠のいのち、人格的成長、自由、超越的次元						
授業の概要	近代以降の西欧社会に広まった無神論的「希望」に対するキリスト教の批判的見解を学び、人間を幸福に導く希望の抱き方とその根拠について考察する。各自は、人間学的テーマの中から主題を定め、研究の発表とディスカッションを通して考察を深め、論文の形式にまとめる。						
達成目標および到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 生き方の選択、及び、社会問題に表れる人間の本質としての自由に関する問いと向き合い、自分なりの見解をまとめて発表する能力を身につけるとともに、論文形式の文章を作成することができるようになる。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ①キリスト教的視点からの問題意識を参照しながら、社会に散在する人間の自由を脅かす課題を見つけ、文献研究を通して考察を深め、論理的な文章表現をもって、研究発表をすること。 ②批判や反対意見をも受け取る力を養い、研究倫理を守り論拠を示しながら見解を述べる論文形式の文章を作成すること。						
評価方法および評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 授業への積極的参加（30%）、研究発表（30%）、研究論文（40%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 ①授業時の積極的参加：授業中の発表やディスカッション時に、積極的に参加し、議論の展開に寄与したこと。 ②研究発表：参考文献を的確に理解した上で考察を深め、自己の見解を分かりやすくまとめ、発表できること。 ③研究論文：授業内での議論を踏まえて問いを発展させ、研究倫理を守り説得力のある論文に仕上げるができること。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	キリスト教の信仰と希望 研究倫理について、発表	講義、ディスカッション	夏季休暇中の課題発表準備
2	初代教会の信仰と希望	講義、ディスカッション	個人研究を進める テキスト pp.13-26 を読む
3	永遠のいのちとは	講義、ディスカッション	個人研究を進める テキスト pp.27-33 を読む
4	キリスト教的希望は個人主義的なものか	講義、発表、ディスカッション	発表準備 テキスト pp.34-38 を読む
5	近代におけるキリスト教的信仰と希望の変容:「科学による進歩への信仰」	講義、発表、ディスカッション	発表準備 テキスト pp.39-43 を読む
6	近代におけるキリスト教的信仰と希望の変容:「神の国」の政治的展開	講義、発表、ディスカッション	発表準備 テキスト pp.44-50 を読む
7	キリスト教的希望の真の姿	講義、発表、ディスカッション	配布プリントとテキスト pp.51-64 を読む
8	希望を学び実践するための「場」(1) 祈り、研究発表	講義、発表、ディスカッション	発表準備 テキスト pp.65-70 を読む
9	希望を学び実践するための「場」(2) 行動と苦しみ、研究発表	講義、発表、ディスカッション	発表準備 テキスト pp.71-81 を読む

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	希望を学び実践するための「場」(3) 審判、研究発表	講義、発表、ディスカッション	発表準備 テキスト pp.82-97 を読む
11	希望の星であるマリア 研究発表	講義、発表、ディスカッション	発表準備 テキスト pp.98-103 を読む
12	研究発表	発表、ディスカッション	発表準備 論文作成
13	研究発表	発表、ディスカッション	発表準備 論文作成
14	研究発表	発表、ディスカッション	発表準備 論文作成
15	まとめ、リフレクションタイム	講義、学修ポートフォリオ記入	研究論文提出

テキスト	教皇ベネディクト十六世『回勅 希望による救い』（カトリック中央協議会） Pope Benedict XVI “SPE SALVI (Saved in Hope) (Veritas Publications).
参考書	場崎洋『イエスのたとえ話 私たちへの問いかけ』（聖母文庫） 石井隆之『日本の宗教の知識と英語を身につける』（ベレ出版）
その他 特記事項	発表者は事前に担当教員と打ち合わせを行うこと。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	岩崎 明子
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4213	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
キーワード	環境、教育、水問題、貧困、戦争、平和						
授業の概要	この授業ではグローバル・リテラシーの能力を言語面と国際問題（グローバル問題）に焦点を当てて学習していく。グローバル問題は、各国の人々が地球全体の問題として緊急に解決しなければならない問題であり、グローバル問題を理解するために、様々な事柄に関連する背景知識を教養として知っていく。また、問題意識を高める記事の読書は英文を含めて行っていくので、このプレゼミでは英語で聞き、読み、話す、書くの 4 技能を磨きながら、興味ある研究課題を探し、調べ、発表する方法で学習を進めていく。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 グローバル問題を題材にしながら、問題意識を高め、研究課題の調査・まとめ・発表の共同研究を行う力をつける。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ①テキストに基づき、グローバル問題を調べ、発表し、質疑応答やディスカッションを通して、クラスで問題を考察する力をつける。 ②英語文献を読み、英語のニュースを聴く力をつけるとともに、関連英語の語彙を増やす。 ③共同研究を通し、資料収集方法や研究倫理、文書のまとめ方、発表方法を学ぶ。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 討論へ参画、コメントシート（30%）、英文講読（25%）、研究発表（30%）[2 回]、期末レポート（15%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 * 討論への参画：研究発表に対し、課題への問題意識を持ち、積極的に批判的に討議できているか。また、各回のコメントシート CS（授業の準備、授業を通しての考察）が論理的に述べられているか。 * 英語文献の講読：英語文献の内容を的確に把握し、語彙を習得できたか。 * 研究発表：テキスト内容を理解し、文献調査や、レジメの作成などが的確にできたか。パワーポイントを使用し研究の要約説明ができたか。 * 期末レポートは授業で扱ったテーマと関連する興味ある題材をえらびグローバルな社会問題について研究し、関連する文献資料を 2 冊以上読んで、小論文形式で 2,000 字前後にまとめることができたか。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	グローバル・リテラシーと グローバル問題、サステナビリティとは	講義 グループ決め	教科書導入部を読む
2	共同研究のやり方、コメントシートの書き方、研究倫理	講義、討議	プリント
3	地球温暖化： 原因と結果、問題解決のために	発表、質疑応答、 ディスカッション	Ut.2 地球温暖化、を読み CS を書く。発表準備
4	水の問題—飲料水の確保： 水争奪戦争、水資源	発表、質疑応答、 ディスカッション	Ut.3 飲料水の確保、を読み CS を書く。発表準備
5	貧困と飢餓： 貧困問題は人が生み出すもの？	発表、質疑応答、 ディスカッション	Ut.4 貧困と飢餓、を読み CS を書く。発表準備
6	グローバリゼーションと疫病： 鳥インフルエンザ、エボラウイルス	発表、質疑応答、 ディスカッション	Ut.5 病との戦い、を読み CS を書く。発表準備
7	教育とジェンダー： 開発教育、女性のエンパワーメント	発表、質疑応答、 ディスカッション	Ut.1 教育とジェンダーを読 み CS を書く。発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
8	グローバリゼーションとテロリズム	発表、質疑応答、ディスカッション	Ut.6 テロリズム、を読み CS を書く。発表準備
9	平和と紛争の問題 (1) 核兵器	発表、質疑応答、ディスカッション	Ut.8 核兵器、を読み CS を書く。発表準備
10	平和と紛争の問題 (2) ーなぜ大量虐殺は起こったのかー	発表、質疑応答、ディスカッション	Ut.9 カンボジア大量虐殺、を読み CS を書く。発表準備
11	平和と紛争の問題 (3) ー難民問題とはー	発表、質疑応答、ディスカッション	Ut.11 難民、を読み CS を書く。発表準備
12	平和と紛争の問題 (4) ー平和のために非暴力で戦った人々ー①	発表、質疑応答、ディスカッション	Ut.12 マンデラ、を読み CS を書く。発表準備
13	平和と紛争の問題 (5) ー平和のために非暴力で戦った人々ー②	発表、質疑応答、ディスカッション	Ut.13 アウン・サン・スー・チーを読み CS を書く。発表準備
14	期末課題レポートの発表	発表、質疑応答 記録	* 期末課題、記録シート提出、学期の振り返り提出
15	2年生のゼミ論発表への参加 リフレクションタイム	記録、質疑応答	質問の準備 記録シート提出

テキスト	達川奎三、ウォルター・ディビス（2014）『Global Issues Towards Peace – DVD で学ぶ共存社会ーグローバル時代を考える（南雲堂）、他ハンドアウト
参考書	東海大学教養学部国際学科編（2013）『第 4 版国際学のすすめーグローバル時代を生きる人のために』（東海大学出版会）
その他 特記事項	ゼミ生にはグローバル問題に関心を寄せ、問題意識を高めること、および、ゼミの討論への積極的な参加を望む。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	岩崎 明子
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4213	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	グローバル問題、持続可能な世界						
授業の概要	前半では、『第 4 版国際学のすすめ—グローバル時代を生きる人のために』の輪読を通してグローバル時代の問題について考える。後半では英語の文献から「持続可能な世界」をつくるために人類はどのような課題を抱えているのかを大まかにつかんでいく。その作業には、文献（日本語、英語）の要点を的確につかみ、問題の要点を解りやすく整理したレジメを作成し、発表するという技術を学んでいく。これを通して、秋学期のゼミ論のテーマを絞り準備する。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 グローバル化の概念の様々な次元の様相を掴み、その問題点を把握する。さらに、「持続可能な世界」を可能とするために、世界の抱える課題と解決へのチャレンジを知って自分の生き方を考えていく。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 文献を読み、まとめることで、テーマに関する教養をつけるだけでなく、問題点の指摘や考察・分析の結果、自分の意見を的確に述べられるようになる。アカデミックな様式で、レジメやレポートの作成を行えるようになる。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 発表 1（20%）、発表 2（20%）、討論参加・提出物（15%）、課題レポート（25%）、新聞記事ノート（20%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 発表：テキストを熟読し、内容をまとめ、レジメを準備し、教員と事前打ち合わせをして、発表できたか。また、質疑応答に備え、発表後の討論のテーマの準備と司会がうまくできたか。 提出物：アカデミックな様式で、レジメやレポートの作成を行えたか。資料の概要をまとめ、テーマの背景、問題点の考察・分析、自分の意見を的確に述べられたか。 課題レポート：秋の各自の研究課題につながるようなテーマを選択し、十分な資料を読み、まとめ、指定された様式、書式を守り、論理的な考察ができたか。 記事ノート：自分の関心のある記事をスクラップし、まとめと意見を添付したノートを中間期と学期最後に提出できたか。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	目的と概要 / ゼミ論のための自己研究テーマの探し方、決め方、計画、研究倫理	講義、自己紹介	自分の興味関心についてまとめる
2	人間の安全保障—わたしたちと国際社会をつなぐ視点	学生の発表、討議 コメントシート	テキスト第 1 部 1 章を読んで質問票を用意
3	平和構築—戦争で壊された社会を再生するために	学生の発表、討議 コメント	2 章、テキストを読んで質問票を用意
4	国家と安全保障—軍事力の役割をどう考えるか	学生の発表、討議 コメント	3 章、テキストを読んで質問票を用意
5	国際開発と援助—経済成長から人々のための社会づくり	学生の発表、討議 コメント	4 章、テキストを読んで質問票を用意
6	国際政治経済の世界—経済権力と利益の視点	学生の発表、討議 コメント	5 章、テキストを読んで質問票を用意
7	メディアリテラシー—国際社会の情報を読み解く	学生の発表、討議 コメント	6 章、テキストを読んで質問票を用意

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
8	異文化コミュニケーションー多文化間の対話	学生の発表、討論 コメント	7章、テキストを読んで質問票を用意
9	グローバリゼーションとサステナビリティまとめと考察 / Key concept	講義、DVD、討議	グローバリゼーションについてのレポート
10	It's All Connected Population Trends, Carrying Capacity, Ecological Footprint	学生の発表、討論 コメント	Text pp.21-30
11	It's All Connected Food and Water・Energy	学生の発表、討論 コメント	Text pp.33-46
12	It's All Connected Biodiversity and Ocean Planet	学生の発表、討論 コメント	Text. pp.49-65
13	It's All Connected Health, Education, and Human Rights	学生の発表、討論 コメント	Text. pp.78-92
14	It's All Connected Economy / Poverty / Conflict	学生の発表、討論 コメント	Text pp.105-122
15	リフレクションタイム、まとめ 夏のゼミ合宿の内容と準備について	講義、グループワーク	課題レポートの提出 記事ノートの提出

テキスト	東海大学教養学部国際学科編（2013）『第4版国際学のすすめーグローバル時代を生きる人のために』（東海大学出版会）
参考書	抜粋ハンドアウト、Benjamin Wheeler, et al. (2006), <i>"It's All Connected—A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions"</i> , Facing The Future: People and the Planet

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	岩崎 明子
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4213	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
キーワード	ゼミ論文の作成法、研究課題の設定、中間発表、公開発表						
授業の概要	今までに学んだ知識を生かし、自分の関心テーマに従って、ゼミナール論文を作成する。毎回の発表では、発表者が自分の研究成果を発表し、参加者全員で課題を討論する。SJ 祭およびゼミ終了日にはゼミ論についての発表をする。						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 グローバルな世界の問題の中から、選んだ自分のテーマをあらゆる角度から研究し、まとめ、発表し、論文作成をすることが目的である。 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ①先行研究の検討、研究課題の設定、調査、討論をとおして、論文作成に必要な知識と技術をつける。 ②発表と討論の機会を通して、内容を論理的、批判的に考察する力をつける。 ③論文のテーマにそって論文を完成させる。						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 討論への参加（30%）、研究発表（30%）、ゼミ論文（40%） 【評価基準 <i>Criteria</i>】 討論参加：発表に対する意見を、論理的、批判的に述べるできている。 研究発表：先行研究、テーマ設定、研究方法、内容のまとめが適切にできている ゼミ論文：中間発表で述べた課題の目的と内容の展開が適切であり、独自性がある。						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	今学期のゼミの進め方、ゼミ論について 研究倫理	講義	ゼミ論の構成を考えてくる
2	ゼミ論文構想の発表とテキストを使った 討論（1）	学生発表、討論	発表の準備
3	ゼミ論文構想の発表とテキストを使った 討論（2）	学生発表、討論	発表の準備
4	ゼミ論文構想の発表とテキストを使った 討論（3）	学生発表、討論	発表の準備
5	ゼミ論中間発表準備（1）	学生発表、討論	発表の準備
6	ゼミ論中間発表準備（2）	学生発表、討論	発表の準備
7	SJ 祭ゼミ論構想発表会練習	学生発表、質疑応答	レジメと発表の準備
8	ゼミ論文中間報告とテキストを使った討 論（1）	学生発表、討論	発表の準備
9	ゼミ論文中間報告とテキストを使った討 論（2）	学生発表、討論	発表の準備
10	ゼミ論文中間報告とテキストを使った討 論（3）	学生発表、討論	発表の準備
11	ゼミ論文中間報告Ⅱとテキストを使った 討論（1）	学生発表、討論	発表の準備
12	ゼミ論文中間報告Ⅱとテキストを使った 討論（2）	学生発表、討論	発表の準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
13	ゼミ論文中間報告 II とテキストを使った 討論 (3)	学生発表、討論	発表の準備
14	ゼミ論文発表と討議の準備、まとめ	発表と質疑応答	発表の準備
15	ゼミ論文発表会 (1.2 年合同) リフレクションタイム	発表と質疑応答	発表の準備

テキスト	ゼミ論の準備資料とともに、ゼミ I で使用したテキストを使用する。
参考書	東海大学教養学部国際学科編 (2013)『第 4 版国際学のすすめ—グローバル時代を生きる人のために』(東海大学出版会) 第 2 部 抜粋ハンドアウト、Benjamin Wheeler, et al. (2006), "It's All Connected—A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions", Facing The Future: People and the Planet

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	Thomas
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4211	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
キーワード	Peace, positive & negative peace, structural violence, causes of war, peace movements						
授業の概要	This pre-seminar introduces basic concepts and issues in peace studies. Through lectures, presentations and discussions, this course facilitates students to reflect not only on the theoretical aspects of war, conflicts and peace building but also the social and political issues that affect the lives people. Students' active participation in classroom activities such as discussion, group work, close reading, and presentation is required. Through these activities, students will develop critical thinking, ability to express their thoughts and opinions clearly, and respect others' opinion.						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 Through this course, students will acquire an introductory knowledge of the basic concepts and issues in peace studies. They will also learn the skills to participate in a discussion, to make power point presentations and take notes in English. Students will also be trained to write a short research paper based on research ethics. 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 By the end of this course, students should be able to • understand the key concepts, history and the basic issues in peace studies • think critically about social and political issues that affect the international community • participate in a discussion creatively on topics related to peace studies • write a short research paper related to peace and issues related to peace • improve their knowledge of English vocabulary						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 Class participation (40%), Research presentation (30%), Research paper (30%) 【評価基準 <i>Criteria</i>】 Class participation : 40% Discussion, group work and other in-class activities (20%) • do personal research and collect material for discussion and group work • prepare one's opinion in 100 words for discussion • active participation in discussion and group work • cooperation with other group members • ability to use appropriate vocabulary and grammar • ability to express critical thinking • ability to express one's opinion logically and systematically • ability to separate facts from opinion Mini tests (20%) • accuracy of answers • completeness of answers • ability to express oneself in English • ability to summarize the key points Research presentation : 30% • appropriate use of research materials • ability to make a power point presentation systematically • confidence, audibility, pronunciation • accuracy of grammar and vocabulary • systematic preparation of the handouts Research paper : 30% • review of previous literature on the topic • ability to analyze information and data critically • ability to write thesis statement, topic sentence and supporting sentences • accuracy of the language						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Introduction to teaching materials, research ethics, Views on peace and peace education	Lecture, group work (GW), Q&A	Purchase textbook, prepare for self-introduction
2	Unit 1 Education and Gender – Creating opportunities for learning	Lecture, discussion, group work, Q&A	Read text book (TB) pp. 13-18 and do the exercises
3	Unit 2 Global Warming – Environmental threats to our planet	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 19-24 and do the exercises, prepare for GW
4	Unit 3 Drinking Water – Getting safe water in the Gaza strip	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 25-30 and do the exercises, prepare for GW
5	Unit 4 Poverty and Hunger – Child malnutrition in Niger	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 31-36 and do the exercises, prepare for GW
6	Unit 5 Fighting Disease – Malaria and HIV / AIDS	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 37-42 and do the exercises, prepare for GW
7	Unit 6 Terrorism – 9/11 Attacks and Counter Terrorism Strategy	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 43-48 and do the exercises, prepare for GW
8	Unit 7 Internment – Japanese Camps in the North America after Pearl Harbor	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 51-56 and do the exercises, prepare for GW
9	Unit 8 Atomic Weapons – Hiroshima	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 57-62 and do the exercises, prepare for GW
10	Unit 9 Genocide and Crimes against Humanity – The Khmer Rouge	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 63-68 and do the exercises, prepare for GW
11	Unit 10 Landmines – Demining in Afghanistan and Cambodia	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 69-74 and do the exercises, prepare for GW
12	Unit 11 Refugees – Life in a Refugee Camp and International Refugee Law	Lecture, discussion, group work, mini test	Read TB pp. 75-80 and do the exercises, prepare for GW
13	Research presentation by the students	Presentation, Q&A discussion, mini test	Prepare for presentation and mini test
14	Research presentation by the students	Presentation, Q&A discussion	Prepare for presentation and discussion
15	Conclusion, Reflection time, Research presentation by the students	Presentation, Q&A, submission of the final report	Prepare for presentation and review of the semester

テキスト	Keiso Tatsukawa, Walter Davies et al. <i>Global Issues Towards Peace</i> (Nanun-do).
参考書	岡本 三夫、横山 正樹編著『新・平和学の現在』(Peace Studies in the Making: A New Edition) (法律文化社) David P. Barash. <i>Introduction to Peace Studies</i> (Wadsworth Publishing Company).

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	Thomas
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4211	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	Peace, nonviolence, conflict resolution, reconciliation, environmental protection, peace building						
授業の概要	This course introduces fifteen great peacemakers: their life, message and philosophy. This course focuses on the following five areas: nonviolence, living peace, honoring diversity, valuing all life, and caring for the planet. Through this course students will learn how different people brought about peace to war-stricken states, resolved age-long conflicts, peace through sustainable development and environmental protection.						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 This course aims to introduce successful attempts of peace-building processes in various parts of the world by different individuals. Students will also learn how various academic disciplines such as politics, economics, law, international relationship, environmental studies, religion etc are related to peace studies. Students will also be trained to write a short research paper based on research ethics. 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 By the end of this course, students will • know about various ways of bringing peace in different kinds of situations • be able to write a short research paper on topics related to peace • be able to make a presentation of the result of their research using PowerPoint • be able to participate in a discussion creatively • have improved their knowledge of English vocabulary						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 Class participation (40%), Research presentation (30%), Research paper (30%) 【評価基準 <i>Criteria</i>】 Class participation : 40% Discussion, group work and other in-class activities (20%) • do personal research and collect material for discussion and group work • prepare one's opinion in 100 words for discussion • active participation in discussion and group work • cooperation with other group members • ability to use appropriate vocabulary and grammar • ability to express critical thinking • ability to express one's opinion logically and systematically • ability to separate facts from opinion Mini tests (20%) • accuracy of answers • completeness of answers • ability to express oneself in English • ability to summarize the key points Research presentation : 30% • appropriate use of research materials • ability to make a power point presentation systematically • confidence, audibility, pronunciation • accuracy of grammar and vocabulary • systematic preparation of the handouts Research paper : 30% • review of previous literature on the topic • ability to analyze information and data critically • ability to write thesis statement, topic sentence and supporting sentences • accuracy of the language						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Introduction to the course, class procedures and learning materials, research ethics	Lecture, discussion, Q&A	Purchase the textbook (TB)
2	Nonviolence: Nonviolent resistance (Mahatma Gandhi)	Lecture, reading, discussion, Q&A	Read TB pp. 11-18, and prepare for discussion
3	Nonviolence: Daring to dream (Martin Luther King, Jr.)	Lecture, mini test, Q&A reading, discussion	Read TB pp. 19-26, prepare for discussion and mini test
4	Nonviolence: Living deliberately (Henry David Thoreau)	Lecture, mini test, Q&A reading, discussion	Read TB pp. 3-10, prepare for discussion and mini test
5	Living peace: Living peace (Mother Theresa)	Lecture, mini test, Q&A reading, discussion	Read TB pp. 37-44, prepare for discussion and mini test
6	Living peace: Being peace (Thich Nhat Hanh)	Lecture, mini test, Q&A reading, discussion	Read TB pp. 45-52, prepare for discussion and mini test
7	Living peace: “Us” refers to all of humankind (Oscar Arias)	Lecture, mini test, Q&A reading, discussion	Read TB pp. 61-67, prepare for discussion and mini test
8	Honoring diversity: Interfaith Harmony (Bruno Hussar)	Lecture, mini test, Q&A reading, discussion	Read TB pp. 71-78, prepare for discussion and mini test
9	Honoring diversity: Universal compassion (The Dalai Lama)	Lecture, mini test, Q&A reading, discussion	Read TB pp. 95-101, prepare for discussion and mini test
10	Valuing all life: Realizing our humanity (Jane Goodall)	Lecture, mini test, Q&A reading, discussion	Read TB pp. 129-135, prepare for discussion and mini test
11	Research presentation by students	Presentation, Q&A, discussion	Prepare for presentation and mini test
12	Research presentation by students	Presentation, Q&A, discussion	Prepare for presentation and mini test
13	Research presentation by students	Presentation, Q&A, discussion	Prepare for presentation and mini test
14	Research presentation by students	Presentation, Q&A, discussion	Prepare for presentation and mini test
15	Conclusion, reflection time, Submission of research paper	Lecture, discussion, submit research paper	prepare for review of the semester

テキスト	Ken Beller, Heather Chase. <i>Great Peacemakers: True Stories from Around the World</i> (LTS Press).
参考書	David P. Barash. <i>Introduction to Peace Studies</i> (Wadsworth Publishing Company).

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	Thomas
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4211	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
キーワード	Peace, negative & positive peace, diplomacy, negotiation, balance of power, deterrence						
授業の概要	This course introduces strategies and theories for preventing wars, and building peace. Specific strategies for building “negative peace” such as diplomacy, negotiations, conflict resolution etc., are dealt with in this course. Means for building “positive peace” such as promotion of human rights, environmental protection, economic well-being, promotion of nonviolence etc., will also be introduced.						
達成目標 および 到達目標	【達成目標 <i>Course goals</i>】 In this course students will mainly focus on the strategies to prevent wars through building positive and negative peace. Students will also do personal research based on research ethics throughout the semester on a topic related to peace which will be submitted as their graduation thesis. 【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 By the end of this course, students will • have mastered some of the strategies for preventing wars and building peace • have developed skills to do an independent research project • be able to participate in a discussion constructively • be able to extract ideas and information by reading books and articles for their project • have acquired the skills necessary to make a presentation using PowerPoint effectively						
評価方法 および 評価基準	【評価方法 <i>Categories</i>】 Class participation (30%), presentation of research result (20%), thesis (50%) 【評価基準 <i>Criteria</i>】 Class participation : 30% Mini tests (15%) • accuracy of answers • completeness of answers • ability to express oneself in English • ability to summarize the key points Discussion, group work and other in-class activities (15%) • do personal research and collect material for discussion and group work • prepare one's opinion in 100 words for discussion • active participation in discussion and group work • cooperation with other group members • ability to use appropriate vocabulary and grammar • ability to express critical thinking • ability to express one's opinion logically and systematically • ability to separate facts from opinion • Q&A Presentation of research result : 20% • appropriate use of research materials • organization and clarity of ideas • logical presentation • ability to answer questions correctly • ability to make a PowerPoint presentation systematically • confidence, audibility, pronunciation • accuracy of grammar and vocabulary • systematic preparation of the handouts Thesis : 50% • review of previous literature on the topic • ability to analyze information and data critically						

	• structure of the thesis, paragraph formation • clarity of ideas and logical presentation • ability to write thesis statement, topic sentence and supporting sentences • completeness • accuracy of the language
--	---

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Introduction: course materials and policies; research ethics	Lecture, reading, short presentation, Q&A	Prepare for a short briefing of the progress of your research
2	Building “Negative Peace”: third-party involvement, negotiating techniques	Lecture, reading, mini test, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and mini test
3	Peace through strength: balance of power, collective security, deterrence	Lecture, reading, mini test, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and mini test
4	Disarmament and arms control: history of disarmament, arms control etc	Lecture, reading, mini test, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and mini test
5	International organizations: The League of Nations, The United Nations etc	Lecture, reading, mini test, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and mini test
6	International law: enforcement of international law; presentation by students	Lecture, presentation, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and mini test
7	History of plans for world government; presentation of research by students	Lecture, presentation, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and presentation
8	War and general ethics, religious support for war; presentation of research by students	Lecture, presentation, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and presentation
9	Building positive peace: human rights; presentation of research by students	Lecture, presentation, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and presentation
10	Building positive peace: ecological wholeness, presentation of research by students	Lecture, presentation, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and presentation
11	Building positive peace: the problem of energy; presentation of research by students	Lecture, presentation, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and presentation
12	Building positive peace: problem of poverty; presentation of research by students	Lecture, presentation, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and presentation
13	Building positive peace: nonviolence in practice, presentation of research by students	Lecture, presentation, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and presentation
14	internal and external transformations; presentation of research by students	Lecture, presentation, discussion, Q&A	Read the handout, prepare for discussion and presentation
15	Conclusion; Reflection time, Submission of research thesis	Lecture, discussion, Q&A	Prepare for review of the semester

テキスト	Materials adapted from the following textbook will be used in class. Richard Smoke with Willis Harman. <i>Paths to Peace: Exploring the Feasibility of Sustainable Peace</i> (Institute of Noetic Science Westview Press).
参考書	David P. Barash. <i>Introduction to Peace Studies</i> (Wadsworth Publishing Company).